

目 次

■ 総 会3
定時総会開催通知	
・日本科学教育学会定時総会	
・一般社団法人日本科学教育学会定時代議員総会	
代議員選挙報告	
■ 法人化13
法人設立に関わるこれまでの取り組みと定款	
■ 学会賞25
2014年度学会賞の決定について	
■ 年 会27
第38回年会案内（最終プログラム）	
■ 若手の会57
若手の会開催案内	
■ 国際交流委員会58
国際ランチョン・ミーティングー国際学会参加のススメー	

定時総会開催通知

下記により、第 38 回日本科学教育学会定時総会と、一般社団法人日本科学教育学会の代議員総会をあわせて開催いたします。代議員総会は、これまでの日本科学教育学会総会の開催回数を引き継いで「第 38 回一般社団法人日本科学教育学会代議員総会」とします。会員各位および代議員各位のご出席をお願いいたします。なお、ご出席されない場合には、会員の皆様は同封の委任状にお名前、議案の賛否を記入し、ご捺印の上、52 円切手を貼って、折り返しご投函ください。代議員の皆様はメールにて委任状にお名前、議案の賛否を記入し、返信をお願いします。

記

会員各位

2014 年 8 月 7 日
一般社団法人日本科学教育学会
会長 中山 迅

日 時：2014 年 9 月 14 日（日）13:00～14:00

会 場：大宮ソニックシティ、大宮ソニック市民ホール

（〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5 ソニックシティビル 5F）

提出議案：

日本科学教育学会定時総会議案

第 1 号議案 2013 年度事業報告及び収支決算承認の件 4 頁

一般社団法人日本科学教育学会代議員総会議案

第 1 号議案 2014-2015 年度役員候補者の承認の件 8 頁

第 2 号議案 2013 年度事業報告及び収支決算承認の件 4 頁

第 3 号議案 2014 年度事業計画及び予算承認の件 8 頁

I. 2013年度（自2013年7月1日至2014年6月30日）事業報告書

2013年度に実施した事業は次のとおりである。（事業費 6,436 千円）

(1) 機関誌等

- 1) 「科学教育研究」第37巻第3号、第4号、第38巻第1号、第2号を刊行し、会員に配布した。
- 2) 「科学教育研究レター」No.214～218、学会通信、学会彙報を刊行し、会員に配布した。学会 Web サイトを運用した。メールマガジンを配信した。
- 3) 「年会論文集 37」「年会論文要旨集 37」を刊行し、申込者に配布した。

(2) 年会

第37回年会（2013年9月6日(金)～9月8日(日)）を三重大学で開催し、一般研究発表・課題研究発表・基調講演・招待講演・インタラクティブセッション等を行った。

(3) 学術交流等

- 1) 本学会が ICASE (International Council of Associations for Science Education)へ再加入した。
- 2) 学会 Web サイトにおける国際交流に関わる部分の修正を行った。

(4) 支部・研究会活動

- 1) 全国10支部の活動を行った。
- 2) 研究会を年8回開催した。

第1回：2013年11月9日、東北支部開催（岩手大学）

第2回：2013年11月23日、九州沖縄支部開催（大分大学）

第3回：2014年3月1日、北陸甲信越支部開催（上越教育大学）

第4回：2014年3月22日、南関東支部開催（東京学芸大学）

第5回：2014年4月6日、北関東支部開催（宇都宮大学）

第6回：2014年5月10日、四国支部開催（香川大学）

第7回：2014年5月31日、中国支部開催（島根大学）

第8回：2014年6月22日、東海支部開催（三重大学）

- 3) 支部主催シンポジウムを開催した。

中国支部主催シンポジウム：2013年12月7日（岡山理科大学）

(5) 学会賞

- 1) 大塚賞を贈呈した。

小川正賢（東京理科大学）

業績：科学教育研究の卓越した業績と本学会運営への多大な貢献

- 2) 学術賞を贈呈した。

西之園晴夫（特定非営利活動法人学習開発研究所）

業績：工学的アプローチによる教育実践研究法の探究と学習開発研究への展開

- 3) 科学教育実践賞を贈呈した。

奥山英登（旭川市旭山動物園）及び旭川市旭山動物園

業績：動物園における生涯教育・学校教育の両面から展開される科学教育実践

尾嶋好美（筑波大学生命環境科学研究科）及び筑波大学 SS リーグ運営委員会

業績：大学が高い研究意欲や能力を有する児童生徒を育成する科学教育実践

4) 奨励賞を贈呈した。

小松孝太郎（信州大学教育学部）

受賞論文：ラカトシュの可謬主義から見た数学的探究とその教育的意義 —証明に焦点を当てて—
—、『科学教育研究』、第 35 巻、第 3 号、pp.272-286、2011

野添 生（広島大学附属東雲中学校）

受賞論文：“Socio-scientific issues”を取り入れた高等学校化学における授業実践研究 —「バナジウムの酸化状態と色に関する実験」の教材開発を事例として—、『科学教育研究』、
第 36 巻、第 2 号、pp.227-240、2012

5) 年会発表賞を贈呈した。

川上 貴（聖徳学園小学校）

発表論文：小学校 5 年生の分布の見方に関する一考察 —仮説—検証のプロセスに焦点をあてて—
—、第 36 回年会論文集、pp.147-150、2012

大滝 孝治（広島大学大学院教育学研究科・院生）

発表論文：メレのミスコンセプションのモデル化、第 36 回年会論文集、pp.391-392、2012

(6) 学会代議員および役員選挙

任期 4 年の代議員 20 名、任期 2 年の代議員 20 名、計 40 名の選挙を行った。

また、理事 8 名、監事 1 名の役員候補者選挙を行った。

Ⅱ. 2013年度（自2013年7月1日至2014年6月30日）収支決算書

収支決算書は、堀 哲夫、熊野善介 監事の会計監査を受け、適正と認められた。

1 一般会計

【収入の部】

科 目	予算額(円)	決算額(円)		決算額 (円)	差額(円) (決算－予算)
		任意団体	法人		
(1) 会費	9,100,000	9,680,000	0	9,680,000	580,000
正会員	8,160,000	8,528,000	0	8,528,000	368,000
学生会員	400,000	325,000	0	325,000	△ 75,000
公共会員	40,000	40,000	0	40,000	0
賛助会員	135,000	135,000	0	135,000	0
未納分	365,000	652,000	0	652,000	287,000
(2) 入会金	100,000	91,000	0	91,000	△ 9,000
(3) 広告料	30,000	0	30,000	30,000	0
(4) 購読料	460,000	263,250	156,000	419,250	△ 40,750
(5) 著作権料	420,000	75,579	228,690	304,269	△ 115,731
(6) 雑収入	1,505,000	1,000,973	77,213	1,078,186	△ 426,814
(7) 年会収入	3,115,000	3,116,022	0	3,116,022	1,022
(8) 選挙管理	250,000	250,000	0	250,000	0
(9) 収支差額	5,696,959	5,696,959	0	5,696,959	
(10) 特別会計		14,854,906	0	14,854,906	
(11) 設立時寄付金			27,166,092	27,166,092	
収入合計	20,676,959	35,028,689	27,657,995		
会 費 前 納 分	4,923,000 円				

【支出の部】

科 目	予算額(円)	決算額(円)		決算額 (円)	差額(円) (予算－決算)
		任意団体	法人		
(1) 管理費	6,552,000	3,242,003	2,803,725	6,045,728	506,272
会議費	120,000	0	0	0	120,000
旅費	1,500,000	891,260	37,000	928,260	571,740
通信費	200,000	44,820	130,376	175,196	24,804
消耗品費	10,000	0	3,885	3,885	6,115
印刷費	82,000	16,128	52,834	68,962	13,038
事務委託費	3,971,000	1,966,500	2,178,150	4,144,650	△ 173,650
IT 調査	497,000	92,904	307,152	400,056	96,944
負担金	100,000	31,553	50,000	81,553	18,447
法人税等	70,000	140,000	29,100	169,100	△ 99,100
雑費	72,000	58,838	15,228	74,066	△ 2,066
(2) 事業費	10,263,000	4,486,294	1,950,234	6,436,528	3,826,472
学会誌	3,830,000	1,476,756	1,852,234	3,328,990	501,010
レター等	558,000	326,074	98,000	424,074	133,926
年会企画	690,000	386,304	0	386,304	303,696
学術交流	585,000	358,879	0	358,879	226,121
研究会支部	1,100,000	0	0	0	1,100,000
年会支出	3,500,000	1,938,281	0	1,938,281	1,561,719
(3) 学会積立	1,000,000	0	0	0	1,000,000
(4) 選挙管理	600,000	0	834,450	834,450	△ 234,450
(5) 予備費	2,261,959	134,300	77,490	211,790	2,050,169
(6) 設立時費用	0	0	274,800	274,800	
(7) 設立時寄附	0	12,311,186	0	12,311,186	
(8) 設立時寄附 (特別会計)	0	14,854,906	0	14,854,906	
(9) 収支差額			21,717,296	21,717,296	
支出合計	20,676,959	35,028,689	27,657,995		
次年度繰越 収支差額			21,717,296		

一般社団法人日本科学教育学会代議員総会第1号議案

1. 役員選任規程による役員選挙の結果に基づき、次のとおり役員候補者を推薦する（任期2年）。

理事候補者	荻原 彰	加藤久恵	佐伯昭彦	坂谷内勝
	三宅志穂	村山 功	森田裕介	山下修一

監事候補者 片平克弘

2. 役員選任規程による会長推薦理事候補者を推薦する（任期2年）。

理事候補者 鈴木栄幸 吉岡亮衛

3. 役員選任規程による重任役員候補者を推薦する（任期2年）。

理事候補者	飯島康之	稲垣成哲	清水美憲	鈴木 誠	千葉和義
	寺田光宏	中山 迅	日野圭子	益子典文	谷塚光典
	余田義彦				
監事候補者	熊野善介				

一般社団法人日本科学教育学会代議員総会第3号議案

I. 2014年度（自2014年7月1日至2015年6月30日）事業計画書

2014年度に実施する事業は次のとおりである。（事業費 13,156千円）

(1) 機関誌等

- 1) 「科学教育研究」第38巻第3号、第4号、第39巻第1号、第2号を刊行し、会員に配布する。第38巻第1号、第2号、第3号、第4号、第39巻第1号、第2号をJ-Stageにおいて公開する。
- 2) 「科学教育研究レター」No.219～223、学会通信、学会彙報を刊行する。学会Webサイトを運用する。メールマガジンを随時配信する。
- 3) 「年会論文集38」「年会論文要旨集38」を刊行し、申込者に配布する。

(2) 年会

第38回年会（2014年9月13日（土）～9月15日（月））を埼玉大学で開催し、一般研究発表・課題研究発表・シンポジウム・インタラクティブセッション等を行う。

(3) 学術交流等

- 1) 国際学会への案内を継続して行うとともに、科学教育研究レターに国際会議の様子を報告する。
- 2) 本年度開催される国際大会へ国際交流委員会のメンバーを一人派遣する。
- 3) アジア等諸外国の科学教育学会やその学会員との交流の推進を図る。
- 4) 教科「理科」関連学会協議会に参加し、理科教育の発展充実を図る。

(4) 支部・研究会活動

- 1) 全国10支部の活動を推進する。
- 2) 以下の9支部において研究会の開催をめざす。

東北支部（北海道支部が協力）、北関東支部、南関東支部、北陸甲信越支部、東海支部、関西支部、中国支部、四国支部、九州沖縄支部

(5) 学会賞

1) 論文賞を贈呈する。

新田英雄（東京学芸大学）

受賞論文：ピア・インストラクションを導入した物理入門講義の実践と分析、『科学教育研究』、第38巻、第1号、pp.12-19、2014

2) 科学教育実践賞を贈呈する。

中村公一（大津市立瀬田北中学校）

業績：博物館教員の相互連携のためのネットワーク構築とその維持

サイエンスキャラバン科学教育実践研究会ならびに井上徳也（立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科）・仲矢史雄（大阪教育大学）・小西伴尚（三重中学・高等学校）

業績：宮城県気仙沼市を中心とした東日本大震災の被災地における科学教育の復興支援

3) 奨励賞を贈呈する。

泉 直志（筑波大学大学院人間総合科学研究科・院生／日本学術振興会特別研究員）

受賞論文：中学校理科教育におけるアーギュメントの構成活動促進を指向した教材開発－「水溶液とイオン」の授業を事例として－、『科学教育研究』、第37巻、第2号、pp.184-195、2013。

奥山英登（旭川市旭山動物園）

受賞論文：野生動物との共存の意識啓発を目的とした「ペンギンの散歩」の評価、『科学教育研究』、第37巻、第3号、pp.215-225、2013。

辻山洋介（敬愛大学）

受賞論文：学校数学の証明の構成における蓋然的な論の検討の方法－argumentationを視点として－、『科学教育研究』、第36巻、第4号、pp.340-355、2012。

4) 年会発表賞を贈呈する。

上ヶ谷友佑（広島大学大学院教育学研究科・院生／日本学術振興会特別研究員）

発表論文：直線に関する小学2年生の非標準コンセプト、『第37回年会論文集』、pp. 428-429、2013。

小泉友香（筑波大学）・日野圭子（宇都宮大学）

発表論文：日本の経験豊富な教師による算数科授業における相互作用の構成、『第37回年会論文集』、pp. 26-29、2013

平澤林太郎（小千谷小学校）・久保田善彦（宇都宮大学）・舟生日出男（創価大学）・鈴木栄幸（茨城大学）・加藤 浩（放送大学）。

発表論文：調べた情報を比較・整理し、変化を発見する授業のデザイン－小学校3年総合的な学習の時間「自然がいっぱい！船岡山」の実践から－、『第37回年会論文集』、pp. 300-301、2013

Ⅱ. 2014 年度（自 2014 年 7 月 1 日至 2015 年 6 月 30 日）収支予算書

1 一般会計

【収入の部】

科 目	予算額（円）	備 考
(1) 会費	9,295,000	
正会員会費	8,296,000	8,000円×(1,220名×85%)
学生会員会費	396,000	5,000円×(132名×60%)
公共会員会費	40,000	20,000円×2名
賛助会員会費	135,000	45,000円×3名
シニア会員会費	48,000	4,000円×12名
未納分会費	380,000	正会員45名、学生会員4名
(2) 入会金	100,000	1,000円×100名
(3) 広告料	30,000	1社
(4) 購読料	460,000	図書館等機関、販売店
(5) 著作権料	296,000	出版社著作権、学術著作権、電子図書館
(6) 雑収入	1,105,000	別刷代、利息等
(7) 年会収入	3,075,000	年会参加費、懇親会費等
(8) 前年度繰越金	21,717,296	
収入合計	36,078,296	

【支出の部】

科 目	予算額 (円)	備 考
(1) 管理費	8,121,750	
役員会議等会議費	100,000	理事会等開催費
旅費交通費	1,100,000	理事・監事等交通費
通信運搬費	200,000	庶務・経理文書発送、会費請求等
消耗品費	10,000	文房具代
印刷費	82,000	封筒印刷費、会費振替用紙印刷費
事務委託費	4,468,950	庶務・経理・会員・編集事務委託
I T調査・管理費	508,800	年会申込、ホスティングサービス料等
負担金	100,000	ICASE、日本学術協力財団
法人税等	70,000	消費税、法人税、法人住民税
雑費	82,000	振込手数料、他
選挙管理費積立	400,000	役員・代議員選挙積立
予備費（管理費）	1,000,000	各種管理活動等
(2) 事業費	13,156,546	
科学教育研究誌	4,100,000	印刷費、発送、編集、電子化等
レター・学会通信等	574,000	通信印刷費、発送、レター編集等
年会・学会賞	890,000	年会企画費、学会賞
学術交流等	1,085,000	国際交流、国内学術交流、調査研究
研究会・支部活動推進	500,000	科教研報編集、研究会会場費等(10回)
年会支出	3,565,000	第38回年会（埼玉大）
予備費（事業費）	2,442,546	各種事業等
(3) 次年度繰越収支差額	14,800,000	基金＋大塚賞＋学会活性化基金分
支出合計	36,078,296	

代議員選挙報告

2013年度に、任期4年の代議員20名、任期2年の代議員20名、計40名の選挙を行った。
当選者は、以下の通りである。

任期が4年の当選者（五十音順）

秋田美代	磯崎哲夫	大谷 忠	荻原 彰	奥山英登
鎌田正裕	川村康文	久保田善彦	小山正孝	佐伯昭彦
隅田 学	瀬沼花子	竹中真希子	土田 理	中山 迅
平賀伸夫	山口悦司	山下修一	吉川 厚	渡邊重義

任期が2年の当選者（五十音順）

青山和裕	縣 秀彦	稲田結美	今村哲史	内ノ倉真吾
大高 泉	小川義和	片平克弘	加藤久恵	加納寛子
楠 房子	坂谷内勝	猿田祐嗣	丹沢哲郎	辻 宏子
二宮裕之	松浦拓也	松本伸示	三宅志穂	吉岡亮衛

法人化

本学会は2014年1月6日付で「一般社団法人」になり、正式名称を「一般社団法人日本科学教育学会」に変えました。法人設立に関わるこれまでの取り組みと、登記申請で法務局へ提出した定款を以下に掲載します。

■法人設立に関わるこれまでの取り組み

- 2012年8月 第252回理事会で、法人化に向けて活動を展開することが会長から提案され2年間の移行を目指す方針が了承された。
- 2012年11月 第254回理事会で、理事会内に法人化部会を設置することが承認された。
- 2012年12月 法人化部会で2日間の勉強会を行い、定款（素案）を作成した。
- 2013年5月 税務対応のため税理士と顧問契約を締結した。
- 2013年6月 第257回理事会（名誉会員、顧問を交えた拡大理事会）で定款（原案）が承認された。
- 2013年7月 定款（原案）とQ&Aを学会ホームページで公開して、意見募集を行った。
- 2013年9月 第37回年会で「学会法人化に向けての説明会」を行った。そして、第37回定時総会で法人化に関係する以下の事項がすべて承認された。(1)現行定款の改定、(2)一般社団法人の設立と学会の解散、(3)新法人への残余財産の移行、(4)一般社団法人の定款案、(5)法人設立時の理事、監事の選任、(6)会員の新法人への自動移行、評議員選挙、役員候補者選挙など
- 2013年12月 公証役場で定款の認証を受けた。
- 2014年1月 法務局で登記を行い、一般社団法人日本科学教育学会を設立した。そして、任意団体の会員および財産の一部を法人へ移した。
- 2014年2月 法人の規程（案）を学会ホームページで公開して、意見募集を行った。また、役員選任規程と代議員選挙管理規程を設立時理事全員の同意を得て制定し（定款第46条）、役員選挙管理委員会、代議員選挙管理委員会を組織した。そして、2月末日に役員候補者選挙、代議員選挙の会告を行い、候補者の推薦・立候補受付を行った。
- 2014年3月 第257回法人理事会で、13件の規程を制定した。
- 2014年4月 シニア会員の申込受付を開始した。
- 2014年5月 役員候補者選挙および代議員選挙を行った。
- 2014年6月 任意団体の財産の残りを法人へ移した。

■一般社団法人日本科学教育学会 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 当法人は、一般社団法人日本科学教育学会と称する。

当法人の英文名は **Japan Society for Science Education** と表記する。

(事務所)

第2条 当法人は、主たる事務所を京都市上京区下立売通小川東入る西大路町146番地に置く。

(目的)

第3条 当法人は、科学についての教育及び科学的、工学的方法による教育に関する研究の進歩普及に資するため、次のものを行うことを目的とする。

- (1) 会員の科学教育に関する研究発表、知識の交換を行うこと
- (2) 会員相互間及び内外関連学協会等との連絡提携を図ること
- (3) 会員の科学教育に関する研究及びその実施に寄与すること

(事業)

第4条 当法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学術講演会、研究発表会、研究会等を主催し、又は後援すること
- (2) 機関紙及び図書を刊行すること
- (3) 科学教育に関する調査研究を行うこと
- (4) 内外関連学協会等と連絡し、並びに協力すること
- (5) 前各号に掲げるもののほか、科学教育に関し特に必要と認められる事業を行うこと

(事業年度)

第5条 当法人の事業年度は、毎年7月1日に始まり、翌年6月30日に終わる。

第2章 会員

(会員の種類)

第6条 当法人の会員は、次の6種とする。

- (1) 正会員 科学教育について学識経験のある者、又は科学教育の研究及びその実施に関心のある者
- (2) 学生会員 科学教育に関心を有するもので、大学学部及び大学院修士課程の在学者又はこれに準ずる在学者
- (3) シニア会員 正会員として10年以上在籍し、満65歳以上で会員種類の変更の申請を提出した者
- (4) 名誉会員 日本の科学教育について特に顕著な功績のあった者
- (5) 公共会員 入会を承認された学校、図書館その他公共性のある機関
- (6) 賛助会員 当法人の目的及び事業を賛助する者

(入会)

第7条 当法人に入会しようとする者は、入会申込書に会員の種類に応じ、それぞれ次に掲げるものを添えて提出し、理事会の承認を経なければならない。ただし名誉会員の入会については、所定の手続きを経て代議員総会で承認されなければならない。

- (1) 正会員 入会金及び1年分の会費
- (2) 学生会員 入会金及び1年分の会費
- (3) 公共会員 1年分の会費
- (4) 賛助会員 1年分の会費

(会員種類の変更)

第8条 会員種類の変更は、以下の手続を経て行う。

- | | |
|----------------------|-------------|
| (1) 学生会員から正会員へ | 所定の手続を経る |
| (2) 正会員からシニア会員へ | 理事会の承認を経る |
| (3) 正会員・シニア会員から名誉会員へ | 代議員総会の承認を経る |

(会費)

第9条 会員は、会員の種類に応じ、それぞれ別に定める会費を納入しなければならない。ただし、名誉会員は会費を免除する。

- 2 会費は前納するものとし、既納の会費は、いかなる理由があっても返還しない。

(会員の権利)

第10条 正会員、学生会員、シニア会員及び名誉会員は、以下の権利を有する。

- | | |
|--------------|---|
| (1) 選挙権、被選挙権 | 代議員・役員候補の選挙権及び被選挙権を有する |
| (2) 論文投稿 | 機関紙に論文を投稿することができる |
| (3) 研究発表 | 当法人の主催する学術講演会、研究発表会に研究を発表することができる |
| (4) 機関紙配布等 | 機関紙の配布を受けるほか、他に優先して、当法人発行の出版物の頒布を受けることができる |
| (5) 行事参加 | 当法人の主催する各種行事に参加することができる |
| (6) 情報開示請求 | 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般法人法」という。）に規程された社員の情報開示請求権を、代議員と同様に当法人に対して行使することができる |

(会員の資格の喪失)

第11条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき
- (2) 本人が死亡し、若しくは失そう宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき
- (3) 第9条第1項の支払義務を会費等に関する規程に定めた期間履行しなかったとき
- (4) 除名されたとき

(退会)

第12条 会員が退会しようとする場合には、未納の会費はこれを納入の上、理事会において別に定める退会届により、その旨を当法人に通知しなければならない。

(除籍)

第13条 会費を滞納した会員は、理事会の決議を経てこれを除籍することができる。

- 2 前項によって除籍された者で、滞納会費に相当する金額を納めるときは、第7

条の手続を経て、再び入会を許可することができる。なお、その者がシニア会員の場合は正会員に準ずる手続を経るものとする。

(除名)

第14条 会員が次に掲げる各号の一に該当するときは、代議員総会の決議を経て、これを除名することができる。

- (1) 定款その他の規則に違反したとき
- (2) 当法人の名誉又は信用をそこなう行為のあったとき

第3章 代議員及び役員等

(代議員及び定数)

第15条 当法人に、30名以上50名以内の代議員を置く。当法人は、代議員をもって、一般法人法上の社員とする。

(代議員の選出)

第16条 代議員を選出するため、正会員、学生会員、シニア会員、名誉会員による代議員選挙を行う。

代議員選挙を行うために必要な代議員選挙管理規程は理事会において定める。

- 2 代議員選挙は2年に1度、4月から6月の間に実施する。
- 3 代議員は、正会員、学生会員、シニア会員、名誉会員の中から選ばれることを要する。正会員、学生会員、シニア会員、名誉会員は、前項の代議員選挙に立候補できる。
- 4 代議員の欠員が生じた場合は、理事会が定める代議員選挙管理規程により、速やかに欠員を補充する。

(代議員の職務権限)

第17条 代議員は会員を代表して代議員総会に出席し、審議事項を審議し決議する。

(代議員の任期)

第18条 代議員の任期は4年とし、重任を妨げない。

- 2 欠員の補充又は増員により選出された代議員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 3 代議員が一般法人法に基づく、社員総会決議取り消しの訴え、解散の訴え、責任追及の訴え及び役員解任の訴えを提起している場合には、当該訴訟が終結するまでの間、当該代議員は代議員としての地位を失わない。ただし当該代議員は、役員選任及び解任並びに定款変更についての議決権を有しないこととする。
- 4 代議員は、任期満了後においても、新たな代議員が選出されるまでは、その職務を行わなければならない。

(代議員の解任)

第19条 代議員が、次の各号の一に該当するときは、総代議員の半数以上が出席し、かつ総代議員の3分の2以上の賛成による代議員総会の決議を経て、解任することができる。

- (1) 心身の故障のために職務の執行に堪えないと認められるとき
- (2) 職務上の義務に違反し、またはその職務を怠ったとき

(代議員の資格の喪失)

第20条 代議員が第11条の規程により会員の資格を喪失したときは、代議員の資格を喪失するものとする。

(役員の種類及び定数)

第21条 当法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 17名以上21名以内
 - (2) 監事 2名以内
- 2 理事のうち、1名を会長、2名を副会長とし、会長をもって一般法人法上の代表理事とする。

(役員を選任等)

第22条 理事及び監事は、役員選任規程に定めるところにより代議員総会において正会員の中から選任する。

- 2 会長は理事会の決議により、理事の中から選任する。ただし、重任を妨げない。
- 3 理事会は、その決議により理事の中から副会長2名を定めることができる。
- 4 監事は理事又は当法人の職員を兼ねてはならない。
- 5 理事のうち、理事のいずれか1名とその配偶者又は3親等内の親族その他特別の関係にある者の合計数は、理事の総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。
- 6 他の同一の団体（公益法人を除く）の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にある者である理事の合計数は、理事の総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

(理事の職務・権限)

第23条 理事は、理事会を構成し、この定款の定めるところにより、当法人の業務の執行を決定する。

- 2 会長は、当法人を代表し、その業務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

(監事の職務・権限)

第24条 監事は、この法人の業務及び財産に関し、次の各号に規程する職務を行う。

- (1) 法人の財産及び会計の状況を監査すること
- (2) 理事の業務執行の状況を監査すること
- (3) 財産及び会計の状況又は業務の執行について不正の事実を発見したときは、これを理事会及び代議員総会に報告すること
- (4) 前号の報告をするために必要があるときは、理事会又は代議員総会の招集を請求すること

(役員任期等)

第25条 役員の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時代議員総会の終結の時までとし、2期を限度として重任を妨げない。ただし、会長の職にある者の理事の任期の重任は4期まで妨げないものとする。

2 役員に欠員が生じた場合は、役員選任規程に定めるところにより代議員総会を開催して欠員を補充できる。欠員により選任された役員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(役員の解任)

第26条 役員が、次の各号の一に該当するときは、総代議員の半数以上が出席し、かつ総代議員の3分の2以上の賛成による代議員総会の決議を経て、解任することができる。この場合、代議員総会で決議する際に、その役員に弁明の機会を与えなければならない。

(1) 心身の故障のため、職務の執行に堪えないと認められるとき

(2) 職務上の義務違反その他役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき

(役員資格の喪失)

第27条 役員が第11条の規程により会員の資格を喪失したときは、役員資格を喪失するものとする。

(役員報酬)

第28条 役員は無報酬とする。

(事務局長及び幹事)

第29条 会長、副会長を補佐して、日常の会務の執行を統括するため、事務局長を置く。また、事務局長を補佐するため、必要に応じて幹事を置くことができる。

2 事務局長及び幹事は会長が正会員（理事を含む）のうちから委嘱し、その任期は委嘱後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時代議員総会の終結の時までとする。ただし、重任を妨げない。事務局長及び幹事が職務を執行できなくなった場合、会長は委嘱を解いて欠員を補充できる。その場合の任期は、前任者の残任期間とする。

3 事務局長は、理事会に出席する。

(顧問)

第30条 当法人に顧問を置く。

2 顧問は、会員の中から会長が委嘱し、その任期は委嘱後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時代議員総会の終結の時までとする。ただし、重任を妨げない。

3 顧問は、会長その他の役員の諮問に応じ、又は理事会の要請があるときは、これに出席して意見を述べるることができる。

第4章 代議員総会

(代議員総会の種別)

第31条 当法人の代議員総会は、定時代議員総会及び臨時代議員総会とする。

- 2 前項の代議員総会をもって一般法人法に定める社員総会とする。

(代議員総会の構成)

第32条 代議員総会は、代議員をもって構成する。

- 2 代議員総会における議決権は、代議員1名につき1個とする。
- 3 理事、監事及び事務局長は、やむを得ない事由がある場合を除き、代議員総会に出席しなければならない。
- 4 会員は、代議員総会に出席して意見を述べることができる。

(代議員総会の決議事項)

第33条 代議員総会は、次の事項を決議する。

- (1) 事業計画及び収支予算の決議に関する事項
- (2) 前年度事業報告及び収支決算の承認に関する事項
- (3) 基本財産の処分に関する事項
- (4) 定款の変更及び定款において代議員総会の権限に属せしめられた事項
- (5) 役員の選任及び解任に関する事項
- (6) 次条第2項2号により提出された議案に関する事項
- (7) 前各号に掲げるもののほか、会長が必要と認めて付議した事項
- (8) その他一般法人法に規程する事項

(代議員総会の開催)

第34条 定時代議員総会は、毎事業年度の終了後3か月以内に開催する。

- 2 臨時代議員総会は、次に掲げる各号の一に該当する場合に開催する。
 - (1) 理事会が必要と認め、招集を決議したとき
 - (2) 総代議員の5分の1以上から、理事に対し、代議員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、代議員総会の招集の請求があったとき

(代議員総会の招集)

第35条 代議員総会は、理事会の決議に基づき、会長が招集する。

- 2 会長は、前条第2項の規程による請求があったときは、請求があった日から6週間以内の日を代議員総会の日とする臨時代議員総会を招集しなければならない。
- 3 前項の規程にかかわらず、代議員が書面又は電磁的方法によって議決権を行使することができることとするときは、開催日の2週間前までに通知しなければならない。
- 4 理事会による招集の決議の後、遅滞なく招集の手続きが行われない場合は、理事が代議員総会を招集することができる。
- 5 前条第2項第2号の招集を請求した代議員は、一般法人法第37条第2項に定める場合は、裁判所の許可を得て、代議員総会を招集することができる。

(代議員総会の議長)

第36条 代議員総会の議長は、会長をもってこれにあてる。

- 2 会長が特に必要と認めた場合には、前項の規程にかかわらず議長及び副議長を指名すること

ができる。

(代議員総会の定足数)

第37条 代議員総会は、代議員の過半数の出席がなければ開催することができない。

(代議員総会の決議方法)

第38条 代議員総会の議事は、一般法人法第49条第2項に規程する事項及びこの定款に規程するものを除き、代議員の過半数が出席し、出席した代議員の過半数をもって決する。

2 前項の場合において、議長は票決に加わらないが、票決が可否同数かつ議長が代議員であるときは、議長がこれを決する。

3 代議員は一般法人法に規程された方法に基づき、代理人、書面、又は電磁的方法によってその議決権を行使することができる。

(代議員総会の議事録)

第39条 代議員総会の議事については、法務省令で定められた事項を記載した議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、議長及び代議員総会において選任された議事録署名人2名が、記名押印又は署名しなければならない。

第5章 理事会

(理事会の構成)

第40条 理事会はすべての理事をもって構成する。

(理事会の権限)

第41条 理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の職務を行う。

- (1) 代議員総会に付議する事項
- (2) 委員会、研究会、支部の設置及び改廃並びにその運営に関する事項
- (3) 諸規程の制定及び改廃に関する事項
- (4) 会長の選定及び解職に関する事項
- (5) 前各号に掲げるもののほか会務の運営に関する事項

(理事会の招集及び開催)

第42条 理事会は、会長が招集する。ただし一般法人法の規程により理事及び監事が招集する場合を除く。

2 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、開催の日の1週間前までに、理事、監事及び事務局長に通知しなければならない。

3 前項の規程にかかわらず、理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集の手続きを経ることなく開催することができる。

(理事会の議長)

第43条 理事会の議長は、会長がこれにあたる。

(理事会の定足数)

第44条 理事会は、理事の定員の過半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

(理事会の決議方法)

第45条 理事会の議事は、別に規程するもののほか、出席理事の過半数をもって決する。

2 前項の決議について特別の利害関係を有する理事は、決議に加わることができない。

(理事会の決議の省略)

第46条 理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、当該提案について、決議に加わることのできる理事の全員が書面又は電磁的方法により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議を述べた場合は、その限りではない。

(理事会の議事録)

第47条 理事会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成し、出席した会長及び監事はこれに署名・押印しなければならない。

第6章 資産及び会計

(資産の種別)

第48条 当法人の資産は、次のとおりとする。

- (1) 基本財産 基本金並びに代議員総会の決議を経て基本財産に編入された財産
- (2) 運用財産 基本財産を除くその他の財産

(基本財産の消費等)

第49条 基本財産は、消費し、又は担保に供することができない。ただし、事業遂行のためやむをえない理由があるときは、代議員総会の決議を経て、その一部に限り処分し、又は担保に供することができる。

(経費)

第50条 当法人の経費は、次のものをもって支弁する。

- (1) 会費
- (2) 事業に伴う収入
- (3) 寄付金（基本財産に指定して寄付されたものを除く）
- (4) 資産から生ずる果実
- (5) その他の収入

(寄付の受領)

第51条 寄付金品は、理事会の決議を経てこれを受領する。

(剰余金の分配の禁止)

第52条 当法人は、代議員その他の者に対し、剰余金を分配することができない。

(事業計画及び収支予算)

第53条 当法人の事業計画及び収支予算については、毎事業年度の開始の日の前日までに会長が作成し、理事会の決議を経て代議員総会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

- 2 前項の規程にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、会長は理事会の決議を経て、予算成立の日まで前年度の予算に準じた収入支出を行うことができる。
- 3 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(事業報告及び決算)

第54条 当法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が事業報告書及び計算書類並びにこれらの附属明細書を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経た上で、定時代議員総会において承認を受けなければならない。

(長期借入金)

第55条 当法人が借入れをしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、代議員総会において代議員の半数以上が出席し、総代議員の3分の2以上の賛成の決議を経なければならない。

(基金)

第56条 当法人は、基金を引き受ける者の募集をすることができる。

- 2 拠出された基金は、当法人が解散する日まで返還しない。
- 3 基金の返還の手続については、定時代議員総会の決議に従い、理事会において定める。

第7章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第57条 この定款は、総代議員の半数以上が出席し、かつ総代議員の3分の2以上の賛成による代議員総会の決議を経なければ変更することができない。

(解散)

第58条 当法人の解散は、総代議員の半数以上が出席し、かつ総代議員の3分の2以上の賛成による代議員総会の決議を経なければならない。

(残余財産の帰属)

第59条 当法人の解散に伴う残余財産の処分は、総代議員の半数以上が出席し、かつ総代議員の3分の2以上の賛成による代議員総会の決議を経て、公益法人又は当法人の目的と同種又は類似の目的を有する一般社団法人若しくは一般財団法人に寄付するものとする。

第8章 事務局及び委員会、研究会、支部

(事務局)

第60条 この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

- 2 事務局には、所要の職員を置く。
- 3 事務局職員は、会長が理事会の承認を得て任免する。
- 4 事務局の組織及び運営に関し重要な事項は、会長が理事会の決議により、別に定める。
- 5 職員は、有給とする。
- 6 事務局業務は、会長が理事会の承認を得て外部に委託することができる。

(委員会)

- 第61条 会務執行のため委員会を置く。
- 2 委員会に関する規則は、別に定める。

(研究会)

- 第62条 第4条に定める事業を推進するため、研究会を置くことができる。
- 2 研究会に関する規則は、別に定める。

(支部)

- 第63条 第4条に定める事業を推進するため、支部を置くことができる。
- 2 支部に関する規則は、別に定める。

第9章 公告の方法

(公告)

- 第64条 当法人の公告は、電子公告により行う。ただし、事故、その他やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、官報に掲載する方法により行う。

第10章 補則

(委任)

- 第65条 この定款を施行するために必要な規則は、理事会の決議を経て別に定める。

第11章 雑則

(備付け帳簿及び書類)

- 第66条 当法人の事務所に、次の帳簿及び書類を備えなければならない。
- (1) 定款
 - (2) 会員名簿
 - (3) 代議員名簿
 - (4) 理事、監事の名簿
 - (5) 認定、許可等及び登記に関する書類
 - (6) 定款に定める機関の議事に関する書類
 - (7) 事業計画書及び収支予算書
 - (8) 事業報告書及び計算書類（貸借対照表及び損益計算書）並びにこれらの附属明細書
 - (9) 前項の監査報告書
 - (10) その他法令で定める帳簿及び書類
- 2 前項各号の帳簿及び書類等の閲覧については、法令の定めによるとともに、理事会の決議に

より別に定める情報公開規程によるものとする。

第12章 附則

(定款施行日)

第67条 この定款は、当法人の成立の日から施行する。

(設立時代議員の氏名、住所)

第68条 当法人の設立時の代議員の氏名及び住所は、次のとおりである。

～省略～

(設立時の役員)

第69条 当法人の設立時役員の定数は第21条の規程にかかわらず理事3名、監事1名とする。理事、代表理事及び監事は、次のとおりとする。

～省略～

(設立時代議員・役員の任期)

第70条 設立時代議員の任期は、第16条の規程により最初の代議員が選任されるまでとし、設立時役員の任期は、第22条の規程により最初に役員を選任する代議員総会の終結の時までとする。

(設立時役員の重任)

第71条 設立時の役員は、第22条の規程に基づき最初に選任される役員に重任されることを妨げない。

(会員の特則)

第72条 従前の日本科学教育学会の会員であって平成25年度分までの会費を納入している者は、第7条の規程にかかわらず、別に設立時理事による理事会が定める日をもって、第6条に定める会員の種類にしたがって当法人の会員とする。

(最初の事業年度)

第73条 当法人の設立初年度の事業年度は、第5条の規程にかかわらず、設立の日から平成26年6月30日までとする。

(最初の代議員選挙)

第74条 第16条第2項の規程にかかわらず、最初の代議員選挙は、平成26年4月から6月の間に実施する。第18条の規程にかかわらず、最初に選出される代議員の半数の任期は2年とする。

以上、一般社団法人日本科学教育学会の設立のため、この定款を作成し、設立時代議員がこれに記名押印をする。

2014 年度学会賞の決定について

学会賞選考委員会では、会員からの推薦にもとづいて慎重に協議を重ね、候補者の選考を進めてまいりました。そして、第 261 回理事会の議を経て、以下の会員に学会賞を授与することを決定いたしました。誠にありがとうございます。

【論文賞】

新田英雄（東京学芸大学）

受賞論文：ピア・インストラクションを導入した物理入門講義の実践と分析、『科学教育研究』、第 38 巻、第 1 号、pp.12-19、2014

選定理由：教員養成系大学の物理入門講義に、大学生の能動的学習（アクティブ・ラーニング）を促す方法としてピア・インストラクションを導入し、その効果を 3 年間の取り組みを通して、定量的なデータの分析を通して検証している。

【科学教育実践賞】

中村公一（大津市立瀬田北中学校）

業績：博物館教員の相互連携のためのネットワーク構築とその維持

選定理由：博物館教員として 2008 年のネットワークの構築に尽力し、その後継続的に情報交換ワークショップを開催している。

サイエンスキャラバン科学教育実践研究会ならびに井上徳也（立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科）・仲矢史雄（大阪教育大学）・小西伴尚（三重中学・高等学校）

業績：宮城県気仙沼市を中心とした東日本大震災の被災地における科学教育の復興支援

選定理由：2011 年 4 月から現在に至るまで、東日本大震災後の科学教育の支援活動として、科学教室、教材・教具（顕微鏡）の寄付、ニーズ調査、サイエンスカフェなどのボランティア活動を精力的・継続的に行っている。

【奨励賞】

泉 直志（筑波大学大学院人間総合科学研究科・院生／日本学術振興会特別研究員）

受賞論文：中学校理科教育におけるアークギュメントの構成活動促進を指向した教材開発－「水溶液とイオン」の授業を事例として－、『科学教育研究』、第 37 巻、第 2 号、pp.184-195、2013

選定理由：中学校理科教育におけるアークギュメントの構成活動を促進するための教材としてワークシートを開発し、2 単位時間の実践を通して、その効果を検証し、そのワークシートが「根拠の有無」に有意に影響していること明らかにしている。

奥山英登（旭川市旭山動物園）

受賞論文：野生動物との共存の意識啓発を目的とした「ペンギンの散歩」の評価、『科学教育研究』、

第 37 卷、第 3 号、pp.215-225、2013

選定理由：旭山動物園におけるペンギンの散歩について、来館者のアンケート調査とインタビューの分析を行い、野生動物との共存の意識啓発につながるかを評価することによって、ペンギンの散歩の教育的意義について学術的に明らかにしている。

辻山洋介（敬愛大学）

受賞論文：学校数学の証明の構成における蓋然的な論の検討の方法—argumentation を視点として—、『科学教育研究』、第 36 卷、第 4 号、pp.340-355、2012

選定理由：学校数学の証明の構成における蓋然的な論の検討の方法について、Toulmin 論に依拠して argumentation を視点として理論的に考察し、生徒が論を検討する際に直面する状況と各状況において必要な行為を理論的に特徴付けている。

【年会発表賞】

上ヶ谷友佑（広島大学大学院教育学研究科・院生／日本学術振興会特別研究員）

発表論文：直線に関する小学 2 年生の非標準コンセプト、『第 37 回年会論文集』、pp. 428-429、2013

選定理由：小学校の算数科において 2 年生でも図形に関する「非標準コンセプト」をもつ学習者がいることを丁寧に論証した研究であり、教材研究や学習指導法の研究に新しい手がかりを提供する可能性がある。

小泉友香（筑波大学）・日野圭子（宇都宮大学）

発表論文：日本の経験豊富な教師による算数科授業における相互作用の構成、『第 37 回年会論文集』、pp. 26-29、2013

選定理由：日本の経験豊かな教師による算数科授業ビデオを丹念に分析し、授業の局面が進展する際の教師による「導かれた焦点化パターン」という特徴を明らかにした研究であり、今後の発展性が期待される。

平澤林太郎（小千谷小学校）・久保田善彦（宇都宮大学）・舟生日出男（創価大学）・鈴木栄幸（茨城大学）・加藤 浩（放送大学）

発表論文：調べた情報を比較・整理し、変化を発見する授業のデザイン—小学校 3 年総合的な学習の時間「自然がいっぱい！船岡山」の実践から—、『第 37 回年会論文集』、pp. 300-301、2013

選定理由：小学校の総合的な学習における思考ツールとしての「創発的分業支援システム」と「マグネットシート」の開発及びその有効性に関する実践研究であり、教育実践での活用が期待される。

（学会賞担当理事 小山、稲垣）

第 38 回年会 開催案内（最終プログラム）

1. 年会テーマ：学びの原点への回帰－イノベティブ人材育成のための科学教育研究－
2. 日程：2014 年 9 月 13 日（土）～15 日（月）（3 日間）
※プログラム編成の関係で、若干時間に変更になる場合があります。
※学会通信発行後も年会 Web サイトを更新しますので、最新情報は年会 Web サイトでご確認ください。
さい。
3. 会場：①9 月 13 日（土）・15 日（月）：埼玉大学（大久保キャンパス）
（〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255）
<http://www.saitama-u.ac.jp/access/>
 - ・JR 京浜東北線「北浦和駅」西口→バス「埼玉大学」ゆき（終点）約 15 分
 - ・JR 埼京線「南与野駅」→北入口バス停から「埼玉大学」ゆき（終点）約 10 分又は、西口バス停から「志木駅東口」ゆき（「埼玉大学」下車）、「埼玉大学」ゆき（終点）
 - ・東武東上線「志木駅」東口→バス「南与野駅西口」ゆき（「埼玉大学」下車）約 25 分②9 月 14 日（日）：大宮ソニックシティ（小ホール、市民ホール）
（〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町 1 丁目 7-5）
<http://www.sonic-city.or.jp/modules/access/>
 - ・JR「大宮駅」西口→徒歩約 3 分
4. 主催： 一般社団法人 日本科学教育学会
後援： 文部科学省、埼玉大学、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会

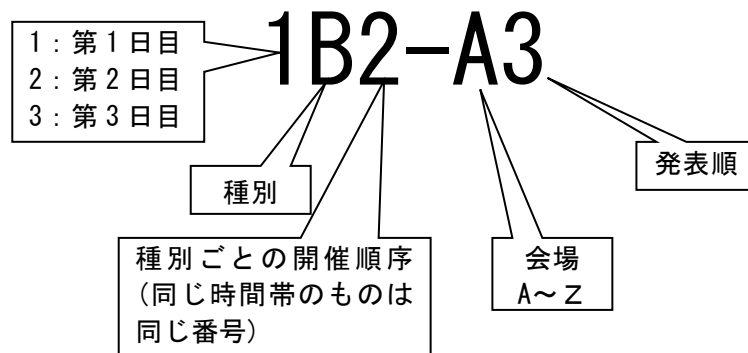
日本科学教育学会第38回年会(埼玉)タイムテーブル 会期:2014年9月13日(土)~15日(月)

1日目 9月13日(土) 会場:埼玉大学		2日目 9月14日(日) 会場:ソニックシティ		3日目 9月15日(月)祝 会場:埼玉大学	
8:30	受付	8:00~ 設営)			8:30
9:00		受付			9:00
9:30		招待講演「科学教育研究セミナー」(45分)			9:30
10:00	課題研究発表(2時間)		一般研究発表(2時間)	年会実行委員会企画	10:00
10:30	一般研究発表(2時間)		一般研究発表(2時間)		10:30
11:00					11:00
11:30	昼食(1時間)	各種委員会(1時間)			11:30
12:00		国際交流委員会企画ラ ンチョンミー ティング (1時間)	研究会企画 委員会・支部 役員会 合同 会議* (1時間)		12:00
12:30			昼食(1時間)		12:30
13:00	インタラクティブ・ セッション (2時間)	一般研究発表 (2時間)	総会**,表彰式 (13:00~14:30)		13:00
13:30					13:30
14:00					14:00
14:30	休憩(15分)		休憩(15分)		14:30
15:00	課題研究発表 (2時間)	一般研究発表 (2時間)	全体シンポジウム (2.5時間) (14:45~17:15)	年会実行委員会・年 会企画委員会 合同 会議	15:00
15:30				15:30	
16:00				16:00	
16:30				16:30	
17:00	移動(15分)		移動(15分)	17:00	
17:30	理事会(改選前)			17:30	
18:00			懇親会 (2時間) (17:30~19:30)	18:00	
18:30	顧問・理事・評議員・代議員・支 部長 合同会議			18:30	
19:00				19:00	
19:30				19:30	
20:00				20:00	

* 研究会企画委員会・支部役員
会 合同会議」には、研究会企画委
員 支部長を含む。支部企画編集
委員、各都道府県代表が出席

** 総会」には、旧学会の総会及
び新法人の代議員総会を含む

◆コードの記述例



◆種別一覧

種 別	コ ー ド	種 別	コ ー ド
シンポジウム	S	一般研究発表	G
課題研究	A	インタラクティブセッション	B
招待講演 (科学教育研究セミナー)	I		

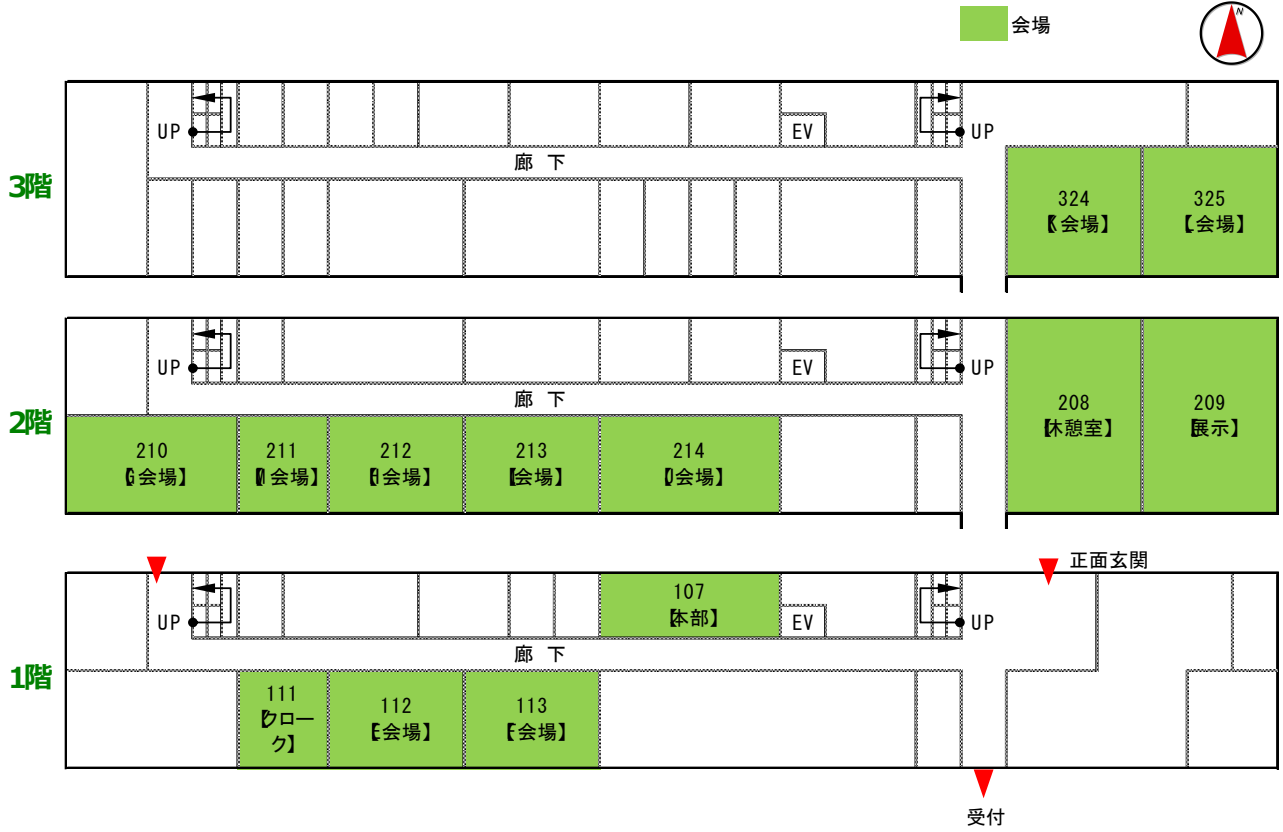
埼玉大学

建物等名	教室等名	会場	2014/9/13 (土)			2014/9/15 (月)	
			9:30-11:30	12:30-14:30	14:45-16:45	9:30-11:30	12:30-14:30
総合研究棟1階	ホール	A		インタラクティブセッション: 1B2-A		企業展示等	
総合研究棟1階	シアター教室	B	課題研究: 1A1-B 卓越性科学教育の教育課程研究(5)-基盤カリキュラム構想(3)-		課題研究: 1A3-B 卓越性科学教育の教育課程研究(6)-コンテンツ開発と実践化: その3-	課題研究: 3A1-B 来館者が新しい価値を生み出す空間としてのミュージアム	課題研究: 3A2-B 知の循環型社会における対話型博物館機能の提案
総合研究棟2階	11番講義室	C	課題研究: 1A1-C 数学教育、理科教育、技術科教育、情報教育からみたモデリング研究への期待		課題研究: 1A3-C 科学技術リテラシーの発展に向けた技術教育と理数教育の連携・協働	実行委員会企画「小中学校教員研修会 全国のコア・サイエンス・ティーチャー(CST)から学ぼう」	
総合研究棟2階	12番講義室	D	課題研究: 1A1-D STEM教育の理論とその実践 ~日本・米国・インドネシアとの研究交流をもとにして~		課題研究: 1A3-D 科学系学位取得者のキャリア形成支援: 欧州の事例からの検討		
教育学部A棟1階	112講義室	E			課題研究: 1A3-E 数学教育におけるテクノロジー活用 of 将来像の考察5	課題研究: 3A1-E 情報リテラシーに関する理論と実践の構築について	課題研究: 3A2-E モデリング研究における理論と実践の架橋を目指して
教育学部A棟1階	113講義室	F			課題研究: 1A3-F 科学教育における対話性: "Unknown question" をめぐって	課題研究: 3A1-F 中学校数学科における課題探究としての説明・証明の実現II	課題研究: 3A2-F 科学の言葉としての数学
教育学部A棟2階	210講義室	G	一般研究: 1G1-G 教育実践・科学授業開発	一般研究: 1G2-G 科学教育課程	一般研究: 1G3-G II・メディア利用の科学教育システム	課題研究: 3A1-G 3・11後の社会に科学教育が果たしうる役割	課題研究: 3A2-G 才能ある児童生徒をグローバルに育む科学教育を目指して
教育学部A棟2階	212講義室	H	課題研究: 1A1-H 「理数教育の充実」にむけて、理科と数学の関連はどうあるべきか?			一般研究: 2G1-H 教育実践・科学授業開発	一般研究: 3G2-H 科学教育の現代的課題
教育学部A棟2階	213講義室	I	課題研究: 1A1-I 連携による科学教育の充実に関する実践事例の検討			課題研究: 3A1-I 東アジア4ヶ国における理科授業分析とその要因の解明	一般研究: 3G2-I 教育方法と評価
教育学部A棟2階	214講義室	J	課題研究: 1A1-J 大学生と社会人に対する数学的リテラシーの教育	一般研究: 1G2-J 国際比較・国際貢献(国際支援)	一般研究: 1G3-J 科学教育人材養成	課題研究: 3A1-J 初等・中等教育における統計的思考力を育成する実践研究と統計のカリキュラム改革に向けて(3)	課題研究: 3A2-J これからの統計教育の方向性(8): 統計の系統的カリキュラムの構想と実践的アプローチ
教育学部A棟3階	324講義室	K	一般研究: 1G1-K 高等科学教育・教育方法と評価	一般研究: 1G2-K 教育実践・科学授業開発	一般研究: 1G3-K 教育実践・科学授業開発	一般研究: 3G1-K 科学教育連携システム	一般研究: 3G2-K 科学認識・科学教育論
教育学部A棟3階	325講義室	L	一般研究: 1G1-L 教材開発		一般研究: 1G3-L 科学的学力・能力	一般研究: 3G1-L II・メディア利用の科学教育システム	一般研究: 3G2-L 科学教育の現代的課題
教育学部A棟2階	エデュスポ(A208, A209)	休憩	休憩室・企業展示等				

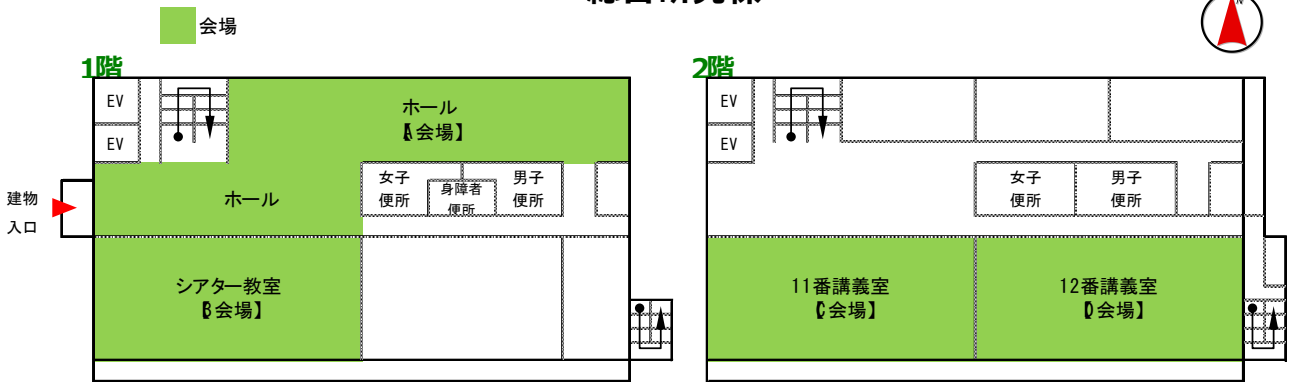
大宮ソニックシティ

建物等名	教室等名	会場	2014/9/14 (日)				
			10:00-12:00	11:00-11:45	13:00-14:30	14:45-17:15	17:30-19:30
ソニックシティホール	小ホール	V		招待講演「科学教育研究セミナー」	総会/表彰式	シンポジウム	
ソニックシティビル4階	市民ホール第1集会室	W	一般研究: 2G1-W 科学教育課程				懇親会
ソニックシティビル4階	市民ホール第2集会室	X	一般研究: 2G1-X 科学教育人材養成				
ソニックシティビル4階	市民ホール第4集会室	Z	一般研究: 2G1-Z 教材開発				

教育学部 A棟



総合研究棟



大宮ソニックシティ



参加者の皆様へ

◇課題研究発表・一般研究発表について

- ・課題発表の発表形式については、オーガナイザーに一任しておりますので、オーガナイザーの指示に従ってください。
- ・オーガナイザーは、所定の時間内に研究発表と討論がバランスよく行えるように時間の調整をしてください。
- ・一般研究の発表は、原則として、1 セクションに5 件で2 時間を配当してあります。1 件の発表の持ち時間は20 分（発表15 分、質疑5 分）です。予鈴は、1 鈴12 分・2 鈴15 分（発表終了）・3 鈴20 分（討論終了）です。時間厳守でお願いします。
- ・フロアの方が発言する際には、「所属」と「氏名」を明らかにしてください。

◇インタラクティブセッションについて

- ・パネルのサイズは幅90cm、高さ180cmです。ポスターはこの大きさに入るサイズでお願いします。
- ・準備作業は13日（土）9時から11時半の間に行ってください。17時までに撤収してください。
- ・電源（事前申込みのあった方のみ）、貼付用のピン、セロテープは用意します。

◇昼食・売店について

- ・9月13日、15日とも、大学の生協第一食堂が11時30分～12時30分の間、特別営業をしております。また、大学会館内のコンビニはその他の時間帯も営業しておりますので適宜ご利用ください。年会本部で弁当のお申し込みや当日の販売は受け付けておりません（昼食時の委員会で事前予約した場合を除く）。また、大学周辺の食堂・売店も利用可能です。
- ・9月14日の昼食については、大宮ソニックシティ内や駅周辺に数多くの飲食店やコンビニがございますので、各自にてお願いします。

◇懇親会について

- ・9月14日（日）17:30～19:30に、ソニックシティビル4階市民ホールにて懇親会を開催します。当日申し込みも受け付けますが、定員になり次第、締め切らせて頂きます。当日の参加費は7,000円（学生会員は4,000円）です。

◇その他

- ・埼玉大学への自家用車、バイクでの入構は、特別な事情（企業展示の装置搬入など）でない限り認められませんのでご了承願います。電車・バス等の公的交通機関をご利用ください。
- ・年会期間中は必ず名札を身に付けてください。
- ・休憩室に教育学部A棟2階エデュスポ（A208）を用意しておりますので自由にご利用ください。休憩室奥には企業展示ブースがありますので合わせてお立ち寄りください。
- ・コンピュータは準備していません。各自でご持参ください。
- ・すべての発表会場にはプロジェクターが設置されていますが、入力ケーブルはアナログVGA仕様です。Mac（iPad）やMicrosoft Surface、その他、HDMI等の出力端子のパソコンを発表でご利用の方は、ご自身でアナログVGAへの変換アダプタを準備されるなどの対応をお願いします。
- ・発表者は、事前の休憩時間などに、各自で使用機器の接続などについてチェックしてください。

- ・無線でインターネットに接続できる環境が利用できる予定ですが、パソコンによっては接続できない場合がありますので、発表に必要な方は、各自でいずれの場合にも対応できる準備をしてください。
- ・PCから音声を出力する場合は、スピーカーを各自でご持参ください。

◇年会論文集と年会論文要旨集

- ・参加費には、『年会論文要旨集』（冊子体）1冊、『年会論文集』（USBメモリ）1個が含まれています。年会当日の受付でお渡しします。
- ・冊子体の『年会論文要旨集』には、学会会場図、年会プログラム、各論文の要旨等が掲載されています。ただし、個々の論文は掲載されていません。
- ・『年会論文集』は、紙媒体での印刷・配布は行われません。
- ・USBメモリに保存された『年会論文集』（PDFファイル）は、お手持ちの端末（ノートPC、タブレットPC等）でご参照ください。電源が確保されないこともありますので、十分に充電をされて、予備バッテリー等をご持参されることをおすすめいたします。
- ・事前参加申込期限・参加費払込期限までに申込・入金いただいた方に、年会論文集ダウンロード・サイトをご案内する予定です。年会初日の1週間程度前に、参加申込時にご記入いただいたメールアドレス宛に、「ダウンロード・サイトのアドレス」「パスワード」をお知らせする予定です。事前に発表論文をお読み頂くことで、年会での議論が活性化することを期待しています。

◇参加申込

- ・事前参加申込は、8月18日(月)で終了しました。
- ・当日参加の場合、当日会場にて参加費をお支払いください。

	種別	事前参加申込 8月18日までに払い込まれた場合、以下の割引が適用されます	当日参加 8月19日以降に払い込まれた場合、当日受付にて不足額をお支払いいただきます
参加費 ※参加費には、年会論文要旨集(冊子体)1冊、年会論文集(USBメモリ)1個が含まれています。	一般会員	¥5,000	¥6,000
	学生会員	¥3,000	¥4,000
	一般非会員	¥7,000	¥8,000
	学生非会員	¥5,000	¥6,000
年会論文集・追加購入費 ※追加購入費には、年会論文集(USBメモリ)1個が含まれています。ただし、年会論文要旨集(冊子体)は含まれていません。	種別関係なく	¥2,500	¥2,500
懇親会費	一般会員	¥6,000	¥7,000
	学生会員	¥4,000	¥6,000
	一般非会員	¥7,000	¥7,000
	学生非会員	¥6,000	¥6,000

各種委員会・表彰等の日程

日程	時間	会議	会場
9月13日(金)	11:30-12:30	編集委員会	E会場（教育学部A棟1階112講義室）
	11:30-12:30	国際交流委員会	F会場（教育学部A棟1階113講義室）
	11:30-12:30	広報委員会	M会場（教育学部A棟2階211講義室）
	17:00-18:00	理事会（改選前）	M会場（教育学部A棟2階211講義室）
	18:00-19:00	顧問・理事・評議員・代議員・ 支部長 合同会議	J会場（教育学部A棟2階214講義室）
9月14日(土)	12:00-13:00	国際交流委員会企画ランチョ ンミーティング	Y会場（ソニックシティビル4階 市民ホール第3集会室）
	12:00-13:00	研究会企画委員会・支部役員 会 合同会議*	W会場（ソニックシティビル4階 市民ホール第1集会室）
	13:00-14:30	総会**・表彰	V会場（ソニックシティホール 小ホール）
9月15日(月)	11:30-12:30	理事会（改選後）	M会場（教育学部A棟2階211講義室）
	14:45-15:45	年会実行委員会・年会企画委 員会 合同会議	M会場（教育学部A棟2階211講義室）

* 「研究会企画委員会・支部役員会 合同会議」には、研究会企画委員（支部長を含む）、支部企画編集委員、各都道府県代表が出席

** 「総会」には、旧学会の総会及び新法人の代議員総会を含む

招待講演（科学教育研究セミナー）

【2日目午前】

招待講演（科学教育研究セミナー）：

日時：9月14日（日）10：45～11：30 V会場（ソニックシティホール 小ホール）

登壇者：西之園晴夫（特定非営利活動法人学習開発研究所）

司会：木村捨雄（鳴門教育大学）

2I1-V1 工学的アプローチによる教育実践研究法の探求と学習開発研究への展開
西之園晴夫(特定非営利活動法人学習開発研究所)

全体シンポジウム

【2日目午後】

全体シンポジウム

日時：9月14日（日）14：45～17：15 V会場（ソニックシティホール 小ホール）

司会：隅田 学（愛媛大学教育学部）

2S1-V1 産業界から見たイノベティブ人材のための科学教育
亀山正俊(三菱電機(株)人材開発センター)

2S1-V2 産業界で必要とされるイノベティブ人材像と育成環境
中野健次(東京工業大学大学院総合理工学研究科)

2S1-V3 持続可能な科学技術・イノベーション創造立国の要～教育～
柘植綾夫(科学技術国際交流センター)

指定討論者 村松浩幸(信州大学学術研究院教育学系)

課題研究発表

【1日目午前】

テーマ：卓越性科学教育の教育課程研究(5)－基盤カリキュラム構想(3)－

日時：9月13日（土） 9：30～11：30 B会場（総合研究棟シアター教室）

オーガナイザー：吉岡亮衛（国立教育政策研究所）

1A1-B1 卓越性科学教育の教育課程研究(5) 基盤カリキュラム構想(3)
吉岡亮衛(国立教育政策研究所)

1A1-B2 「卓越性科学教育の教育課程研究(5)－基盤カリキュラム構想(3)－」“知識と知識をつなぐ知識を教える教育”にもとづく不確実性統計教育（記述統計から現代統計）の教育課程編成
木村捨雄(鳴門教育大学)

1A1-B3 科学の本質を取り入れたカリキュラム構成
磯崎哲夫(広島大学大学院教育学研究科) 野添 生(広島大学附属東雲中学校)

1A1-B4 ドイツ科学教育におけるコンピテンシーモデル構築の展開
遠藤優介(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 大高 泉(筑波大学人間系)

1A1-B5 ドイツ Chemie im Kontext プロジェクトに関する研究 －効果的普及条件の視点から－
寺田光宏(岐阜聖徳学園大学)

1A1-B6 オーセンティック評価の視点から卓越性の科学教育を評価する

テーマ：数学教育、理科教育、技術科教育、情報教育からみたモデリング研究への期待
日時：9月13日(土) 9:30~11:30 C会場(総合研究棟11番講義室)
オーガナイザー：松寄昭雄(埼玉大学)、川上 貴(西九州大学)

- 1A1-C1 モデリング課題研究の企画趣旨説明 数学教育、理科教育、技術科教育、情報教育からみたモデリング研究への期待
松寄昭雄(埼玉大学教育学部) 川上 貴(西九州大学こども学部)
- 1A1-C2 SPECCモデルによる数学的モデリングの授業デザイン
御園真史(島根大学)
- 1A1-C3 探究基盤型理科授業とモデリング 理論モデルから現実世界を読む
土田 理(鹿児島大学教育学部)
- 1A1-C4 技術科教育から見たモデリング研究への期待
森山 潤(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)
- 1A1-C5 数学科・情報科教育法受講者の数学的モデリングに対する意識
渡辺雄貴(首都大学東京大学教育センター)
- 指定討論者 佐伯昭彦(鳴門教育大学)

テーマ：STEM教育の理論とその実践～日本・米国・インドネシアとの研究交流をもとにして～
日時：9月13日(土) 9:30~11:30 C会場(総合研究棟12番講義室)
オーガナイザー：熊野善介(静岡大学)

- 1A1-D1 インフォーマルなSTEM教育の一環としてのサマーキャンプにおける理論とその実践
齊藤智樹(静岡大学創造科学技術大学院) 奥村仁一(静岡大学創造科学技術大学院)
熊野善介(静岡大学創造科学技術大学院/教育学部)
- 1A1-D2 高等学校におけるインフォーマル教育を活用したBio-STEM実験講座の実施について
奥村仁一(静岡大学創造科学技術大学院) 齊藤智樹(静岡大学創造科学技術大学院) 熊野善介(静岡大学創造科学技術大学院)
- 1A1-D3 IMPLEMENTATION OF STEM EDUCATION IN INDONESIA: TEACHER ANALYSIS RESULT OF STEM EDUCATION
Irma Rahma Suwarma, S.Si (Graduate School of Science and Technology, Shizuoka University)
Yoshisuke Kumano (Graduate School of Science and Technology, Shizuoka University)
- 1A1-D4 ものづくりから設計を学ぶ技術科教育の提案
紅林秀治(静岡大学)
- 1A1-D5 科学技術ガバナンスとSTEM教育
熊野善介(静岡大学創造科学技術大学院/教育学部)
- 指定討論
- 1A1-D6 STEM教育の理論とその実践
清原洋一(国立教育政策研究所)

テーマ：「理数教育の充実」にむけて、理科と数学の関連はどうあるべきか？
日時：9月13日(土) 9:30~11:30 H会場(教育学部A棟212講義室)
オーガナイザー：安藤秀俊(北海道教育大学旭川校)

- 1A1-H1 **理科と数学の関連とは何か？**
安藤秀俊(北海道教育大学旭川校理科教育教室)
- 1A1-H2 **数学と理科を関連させた指導の実践とその効果**
小原美枝(神奈川県教育委員会高校教育企画課)
- 1A1-H3 **理科と数学における生徒の「単位」に対する認識**
山田貴人(北海道教育大学大学院教育学研究科)
- 1A1-H4 **数学教育と理科教育との関係についての一考察**
久保良宏(北海道教育大学旭川校数学教育教室)
- 1A1-H5 **ザンビア高等学校における理科と数学の関連性—文脈依存性と概念のつながりとの関係に焦点を当てて—**
高阪将人(広島大学大学院国際協力研究科)

テーマ：連携による科学教育の充実に関する実践事例の検討

日時：9月13日(土) 9:30～11:30 I会場(教育学部A棟213講義室)

オーガナイザー：小田泰史(蒲郡市立蒲郡西部小学校)、平賀伸夫(三重大学)

- 1A1-I1 **子どもたちのために私たちができること—科学教育を充実させる連携教育に関する提案—**
小田泰史(蒲郡市立蒲郡西部小学校)
- 1A1-I2 **貸し出し教材で学校と博物館をつなぐ**
東垂水琢哉(三重大学大学院教育学研究科) 平賀伸夫(三重大学教育学部) 中村千恵(三重県総合博物館)
北村淳一(三重県総合博物館)
- 1A1-I3 **大学の役割—コーディネートと学生教育—**
郡司晴元(茨城大学)
- 1A1-I4 **動物園が企画する教員向け研修会**
高野 智(公益財団法人日本モンキーセンター) 赤見理恵(公益財団法人日本モンキーセンター)
木村直人(公益財団法人日本モンキーセンター)
- 1A1-I5 **先端科学技術と理科授業をつなげたい実践紹介「X線自由電子レーザー施設 SACLA～光が生まれるひみつ～」**
関口芳弘(理化学研究所)
- 1A1-I6 **学校教育との連携に期待すること—ものづくりの楽しさを伝える—**
伊藤智啓(株式会社蒲郡製作所)

テーマ：大学生と社会人に対する数学的リテラシーの教育

日時：9月13日(土) 9:30～11:30 J会場(教育学部A棟214講義室)

オーガナイザー：水町龍一(湘南工科大学)

- 1A1-J1 **大学生と社会人に対する数学的リテラシーの教育**
水町龍一(湘南工科大学)
- 1A1-J2 **「数量的リテラシー」概念の検討**
五島譲司(新潟大学)
- 1A1-J3 **線形計画法による数学の有用性の認識**
井上秀一(帝京大学)
- 1A1-J4 **「数学史」を用いた数学教育の試み**
高安美智子(名桜大学)
- 1A1-J5 **数理パズルで問題解決力を育てる**

萩尾由貴子(久留米大学)

1A1-J6 リメディアル教育における「ビジネス数学」の活用

近藤恵介(公益財団法人日本数学検定協会)

指定討論者 川添 充(大阪府立大学)

【1日目午後】

テーマ：卓越性科学教育の教育課程研究(6)－コンテンツ開発と実践化：その3－
日時：9月13日(土) 14:45～16:45 B会場(総合研究棟シアター教室)
オーガナイザー：銀島 文(国立教育政策研究所)

1A3-B1 卓越性の科学の教育課程構築に向けて アメリカ理数教育先進校の事例の考察

銀島 文(国立教育政策研究所) 日野圭子(宇都宮大学)

1A3-B2 「卓越性の生物教育の実践」に向けた新たな動物細胞実験キットの導入とその論理的背景

羽曾部正豪(東京海洋大学) 吉村成弘(京都大学大学院)

1A3-B3 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)における「課題研究」の実施状況について

九州地区SSHの報告

野瀬重人(岡山理科大学) 鳩貝太郎(首都大学東京)

1A3-B4 GC/html5 を利用した発展的な探究のためのコンテンツ開発と実践

飯島康之(愛知教育大学)

1A3-B5 高大連携生命科学教育における卓越性 理科科目横断講義の実践と成果

吉村成弘(京都大学)

テーマ：科学技術リテラシーの発展に向けた技術教育と理数教育の連携・協働
－デザイン・モデリングの観点からの技術・理科・数学の位置づけと関係の在り方－
日時：9月13日(土) 14:45～16:45 C会場(総合研究棟11番講義室)
オーガナイザー：谷田親彦(広島大学)、大谷 忠(東京学芸大学)

1A3-C1 科学技術リテラシー育成の視点から見た技術科と理科の関係性と課題

大谷 忠(東京学芸大学)

1A3-C2 科学技術リテラシーの発展に向けた技術教育と理数教育の連携・協働 デザイン・モデリング
の観点からの技術・理科・数学の位置づけと関係の在り方

谷田親彦(広島大学) 大谷 忠(東京学芸大学)

1A3-C3 科学技術リテラシーの醸成における技術科教育の影響

竹野英敏(広島工業大学)

指定討論者 中山 迅(宮崎大学) 古川 稔(福岡教育大学) 西村圭一(東京学芸大学) 上野耕史(国立教育政策研究所)

清原洋一(国立教育政策研究所)

テーマ：科学系学位取得者のキャリア形成支援：欧州の事例からの検討
日時：9月13日(土) 14:45～16:45 D会場(総合研究棟12番講義室)
オーガナイザー：野上智行(神戸大学)、三宅志穂(神戸女学院大学)

1A3-D1 科学系学位取得予定者と学位取得者のキャリア形成支援 スイスの事例

北野幸子(神戸大学) 山口悦司(神戸大学)

1A3-D2 科学系学位取得者のキャリア形成支援 雇用される PhD に関するノルウェーおよびスウェー
デンにおける調査からの検討

三宅志穂(神戸女学院大学)

1A3-D3 ドイツにおける科学技術系博士学生に対するキャリア形成支援

藤井浩樹(岡山大学)

指定討論

1A3-D4 ドイツとベルギーの大学における科学技術系大学院課程学生へのキャリア形成支援体制

野上智行(神戸大学)

テーマ：数学教育におけるテクノロジー活用の将来像の考察 5

日時：9月13日(土) 14:45～16:45 E会場(教育学部A棟112講義室)

オーガナイザー：垣花京子(筑波学院大学)、渡辺 信(日本数学検定協会)

1A3-E1 テクノロジーの活用による統計的活動の変化

垣花京子(筑波学院大学)

1A3-E2 グラフ電卓を利用した数学教育のこれから

坪川武弘(福井工業高等専門学校)

1A3-E3 テクノロジーを使った大学初年度の数学基礎教育—学習履歴の違いを生かして—

福田千枝子(帝京大学)

1A3-E4 ビデオ教材(映像コンテンツ)を家庭学習に利用する授業の試み(2)

末廣 聡(岡山県立備前緑陽高等学校)

1A3-E5 数学思考に有用な道具活用と創造性育成

渡辺 信(公益財団法人日本数学検定協会/生涯学習数学研究所)

テーマ：科学教育における対話性：“Unknown question”をめぐって

日時：9月13日(土) 14:45～16:45 F会場(教育学部A棟113講義室)

オーガナイザー：吉岡有文(立教大学)

1A3-F1 課題研究「科学教育における対話性：“unknown question”をめぐって」

吉岡有文(立教大学)

1A3-F2 生徒にとっての“unknown question”、教師にとっての“unknown question” ～高等学校生物の授業を中心に～

福田 恵(横浜国立大学(非常勤講師))

1A3-F3 対話：既知への省察、未知への挑戦

横山草介(青山学院大学社会情報学研究科)

1A3-F4 Unknown Question 概念からみた数学教育の独自性

跡部将彦(青山学院大学)

1A3-F5 老年看護学実習における unknown question

松元由香(聖隷クリストファー大学)

1A3-F6 unknown question から始まる子ども理解

浅見佳子(駒沢女子短期大学)

指定討論者 宮崎清孝(早稲田大学)

【3日目午前】

テーマ：来館者が新しい価値を生み出す空間としてのミュージアム

日時：9月15日(月) 9:30～11:30 B会場(総合研究棟シアター教室)

オーガナイザー：中山 迅(宮崎大学大学院教育学研究科)

3A1-B1 テート美術館「アートへの扉」理論の検討

奥村高明(聖徳大学) 中山 迅(宮崎大学) 大石和江(東京理科大学近代科学資料館)

- 3A1-B2 博物館展示に新たな価値を付与する発問作成の試み
中山 迅(宮崎大学大学院教育学研究科) 大石和江(東京理科大学近代科学資料館)
- 3A1-B3 ミュージアムコミュニケーションの可能性
廣田理紗(島根県立石見美術館)
- 3A1-B4 サイエンスがデザインと交わる場所 -科学コミュニケーション実践における空間デザイン
の一考察-
元木 環(京都大学情報環境機構・京都大学学術情報メディアセンター)
- 指定討論者 小川正賢(東京理科大学)

テーマ：情報リテラシーに関するオントロジーの構築について

日時：9月15日（月） 9：30～11：30 E会場（教育学部A棟112講義室）

オーガナイザー：加納寛子（山形大学）

- 3A1-E1 情報リテラシー(情報分析分野)に関するオントロジーの構築
加納寛子(山形大学) 菱田隆彰(愛知工業大学) 長谷川元洋(金城学院大学) 古崎晃司(大阪大学)
- 3A1-E2 「問題解決」・「情報システム」分野の情報リテラシーオントロジーの構築
古崎晃司(大阪大学) 加納寛子(山形大学) 菱田 隆彰(愛知工業大学) 長谷川元洋(金城学院大学)
- 3A1-E3 「情報通信技術」分野の情報リテラシーオントロジーの構築
菱田隆彰(愛知工業大学) 加納寛子(山形大学) 長谷川元洋(金城学院大学) 古崎晃司(大阪大学)
- 3A1-E4 「情報モラル」分野の情報リテラシーオントロジーの構築
長谷川元洋(金城学院大学) 加納寛子(山形大学) 菱田隆彰(愛知工業大学) 古崎晃司(大阪大学)

テーマ：中学校数学科における課題探究としての説明・証明の実現 II

日時：9月15日（月） 9：30～11：30 F会場（教育学部A棟113講義室）

オーガナイザー：宮崎樹夫（信州大学）

- 3A1-F1 課題探究として証明することのカリキュラム開発 学習レベルの移行過程に関する枠組みに基づき授業化
宮崎樹夫(信州大学)
- 3A1-F2 中学校数学科における課題探究として証明することの授業化：第1学年の単元「空間図形」
岩田耕司(福岡教育大学) 林田真姫(福岡教育大学附属福岡中学校) 西岡和成(福岡教育大学附属小倉中学校)
- 3A1-F3 中学校数学科における課題探究として証明することの授業化：第2学年の内容「連続する3つの自然数の和」
佐々祐之(熊本大学教育学部) 大塚武秀(山鹿市立山鹿中学校)
- 3A1-F4 中学校数学科における課題探究として証明することの授業化：第3学年の小単元「円周角と中心角の関係の活用」
小松孝太郎(信州大学学術研究院教育学系) 牧野圭介(長野県東信教育事務所)

テーマ：3・11後の社会に科学教育が果たしうる役割

日時：9月15日（月） 9：30～11：30 G会場（教育学部A棟210講義室）

オーガナイザー：小西伴尚（三重中学校・高等学校）、仲矢史雄（大阪教育大学）

- 3A1-G1 地震災害に対応する力をつけるための地学部のフィールドワーク
上村剛史(海城中学高等学校) 井上徳也(立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科)
- 3A1-G2 科学者の信頼回復 ～森の健康診断からの一思案～
小西伴尚(梅村学園三重中学校・高等学校)

- 3A1-G3 **教材会社から見た東日本大震災**
中村友香(株式会社ナリカ)
- 3A1-G4 **被災地における地域密着型課題研究の実践が生徒・教員に与えた影響**
熊谷 諭(株式会社リバネス) 松原尚子(株式会社リバネス) 塚田周平(株式会社リバネス) 岡崎 敬(株式会社リバネス) 立花智子(株式会社リバネス) 木村 聡(株式会社リバネス) 宮内陽介(株式会社リバネス) 秋永名美(株式会社リバネス) 諸富 滋(協和発酵キリン株式会社) 都丸淳之(協和発酵キリン株式会社) 堀越真寿美(協和発酵キリン株式会社)
- 3A1-G5 **東日本大震災の被災地での科学コミュニケーションにおけるコーディネータの必要性 一気仙沼市立図書館での実践を例として一**
井上徳也(立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科) 仲矢史雄(大阪教育大学) 小西伴尚(梅村学園三重中学校・高等学校) 上村剛史(海城中学校・高等学校)
- 指定討論者 荻原 彰(三重大学)

テーマ：東アジア 4ヶ国における理科授業分析とその要因の解明

日時：9月15日(月) 9:30～11:30 I会場(教育学部A棟213講義室)

オーガナイザー：吉田 淳(愛知教育大学)

- 3A1-I1 **東アジア 4カ国における理科授業分析とその要因の解明**
吉田 淳(愛知教育大学)
- 3A1-I2 **我が国の小・中学校における理科授業の特徴と問題**
遠西昭壽(愛知教育大学名誉教授)
- 3A1-I3 **韓国の小学校理科授業の分析**
孔 泳泰(韓国晋州教育大学) 池 仁哲(スヤン小学校)
- 3A1-I4 **The Characteristics and Problem of Science Education in Taiwan**
張 美玉(国立新竹教育大學教育學院教育與學習科技學系、台湾) 邱 富源(国立新竹教育大學教育學院教育與學習科技學系、台湾)
- 3A1-I5 **From Student Performance in TIMSS to Reflection on the Impacts of Policy and Curriculum Changes in Science Education in Hong Kong**
Alice Siu Ling Wong(Faculty of Education, The University of Hong Kong)
Maurice Man Wai Cheng(Faculty of Education, The University of Hong Kong)
- 指定討論者 隅田学(愛媛大学)

テーマ：初等・中等教育における統計的思考力を育成する実践研究と統計のカリキュラム改革に向けて(3)

日時：9月15日(月) 9:30～11:30 J会場(教育学部A棟214講義室)

オーガナイザー：松元新一郎(静岡大学)

- 3A1-J1 **箱ひげ図に対する中学生の理解を評価する実験授業 統計カリキュラムの改善への提言**
石綿健一郎(練馬区立三原台中学校)
- 3A1-J2 **標本調査の学習における標本の抽出方法を考えさせる指導**
藤原大樹(横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校)
- 3A1-J3 **統計領域における要約統計量とグラフ表現を関連づけた指導に関する研究 五数要約と箱ひげ図の導入場面に焦点を当てて**
富田真永(静岡県立川根高等学校)
- 3A1-J4 **ニュージーランドの数学教科書における統計指導の特徴 統計カリキュラムの改善への提言**

【3日目午後】

テーマ：知の循環型社会における対話型博物館機能の提案

日時：9月15日(月) 12:30～14:30 B会場(総合研究棟シアター教室)

オーガナイザー：小川義和(国立科学博物館)

- 3A2-B1 知の循環型社会における対話型博物館機能の提案
小川義和(国立科学博物館)
- 3A2-B2 北海道における「科学リテラシーパスポートβ」の成果と課題 主に旭山動物園における事例から
奥山英登(旭川市旭山動物園)
- 3A2-B3 博物館同士がワークショップを連携して実施した場合の参加者に対する効果について
田代英俊(科学技術館)
- 3A2-B4 東北地区における「科学リテラシーパスポートβ」導入に関する現状と課題
岡田 努(福島大学)
- 3A2-B5 関西地区(滋賀県)における「科学リテラシーパスポートβ」の実践と考察
芦谷美奈子(滋賀県立琵琶湖博物館)
- 3A2-B6 「科学リテラシーパスポートβ」を用いることによる利用者の気づきの変容～九州地区のワークショップ実践事例をもとに～
坂倉真衣(九州大学大学院/日本学術振興会)
- 指定討論者 小川正賢(東京理科大学)

テーマ：モデリング研究における理論と実践の架橋を目指して

日時：9月15日(月) 12:30～14:30 E会場(教育学部A棟112講義室)

オーガナイザー：川上 貴(西九州大学)、松寄昭雄(埼玉大学)

- 3A2-E1 モデリング研究における理論と実践の架橋を目指して 企画趣旨説明
川上 貴(西九州大学) 松寄昭雄(埼玉大学)
- 3A2-E2 数学的モデル化の展開に関する一考察
阿部好貴(新潟大学)
- 3A2-E3 数学的モデリングの授業実践における検討課題に関する事例的考察
峰野宏祐(東京学芸大学附属世田谷中学校)
- 3A2-E4 数学的モデル化におけるモデル導出活動の促進に関する一考察
平林真伊(筑波大学大学院人間総合科学研究科・院生)
- 指定討論者 西村圭一(東京学芸大学)

テーマ：科学の言葉としての数学

日時：9月15日(月) 12:30～14:30 F会場(教育学部A棟113講義室)

オーガナイザー：白石和夫(文教大学)

- 3A2-F1 諸科学の基盤としての数学の教育
白石和夫(文教大学)
- 3A2-F2 数学を数学に活用する実践
牧下英世(芝浦工業大学)
- 3A2-F3 物理実験動画を用いた中等数学教育における物理現象の導入例
松澤孝幸(千葉大学(非常勤))

3A2-F4 経済学のために必要となる基礎数学

一山稔之(亜細亜大学)

3A2-F5 Riskを捉え、Riskに対処できる市民の育成をめざす学校数学

町田彰一郎(埼玉大学(名誉教授))

テーマ：才能ある児童生徒をグローバルに育む科学教育を目指して

日時：9月15日(月) 12:30～14:30 G会場(教育学部A棟210講義室)

オーガナイザー：隅田 学(愛媛大学)

3A2-G1 才能ある児童生徒をグローバルに育む科学教育を目指して

隅田 学(愛媛大学)

3A2-G2 大学における科学才能教育～筑波大学の事例から～

尾嶋好美(筑波大学大学院生命環境科学研究科) 佐藤 忍(筑波大学大学院生命環境科学研究科)

小野道之(筑波大学大学院生命環境科学研究科)

3A2-G3 国際学生科学技術フェア(Intel ISEF)日本代表生徒の指導と課題

西本昌司(名古屋市科学館) 村本哲哉(東邦大学理学部)

3A2-G4 卓越性の放射現象を目指した数学的能力に関する基礎研究

田村篤史(栄光学園中学校・高等学校/東京理科大学大学院科学教育研究科博士後期課程)

3A2-G5 フィンランドにおける才能ある児童生徒の数学教育の実例

藤野秀夫(千葉県立千葉東高等学校) 鈴木 誠(北海道大学高等教育推進機構)

指定討論者 瓜谷輝之(日本ヒューレット・パッカー)

テーマ：これからの統計教育の方向性(8)：統計の系統的カリキュラムの構想と実践的アプローチ

日時：9月15日(月) 12:30～14:30 J会場(教育学部A棟214講義室)

オーガナイザー：小口祐一(茨城大学教育学部)

3A2-J1 統計の系統的カリキュラムの構想と実践的アプローチ

小口祐一(茨城大学)

3A2-J2 統計的探究プロセスを取り入れた授業実践について

青山和裕(愛知教育大学)

3A2-J3 統計的内容と問題解決のプロセスの系統性

藤井良宜(宮崎大学)

3A2-J4 中学数学における時系列データを基にした判断を行う授業に関する研究 桜の開花日に関する資料を基にした授業について

西仲則博(奈良教育大学附属中学校) 吉川 厚(東京工業大学)

3A2-J5 統計データを通じて環境問題を考えさせる授業実践

増崎亜沙美(岡崎市立男川小学校)

一 般 研 究 発 表

【1日目午前】

テーマ：教育実践・科学授業開発①

日時：9月13日（土） 9：30～11：30 G会場（教育学部A棟210講義室）

座長：宮崎樹夫（信州大学）、佐藤典子（郡山女子大学）

- 1G1-G1 オープンなフロッチャート証明をすることの効果と限界
宮崎樹夫(信州大学) 松岡 樂(信州大学) 藤田太郎(エクセター大学) Jones Keith(サザンプトン大学)
- 1G1-G2 中学生の圧力の理解を深めさせるための方法とは？ 数学で学習した内容を生かして
石井俊行(奈良教育大学)
- 1G1-G3 国立科学博物館の貸出し教材を活用した授業の試み ～文化学科の学生を対象として～
佐藤典子(郡山女子大学) 小川義和(国立科学博物館)
- 1G1-G4 サイエンス・コミュニケーション特別演習ゼミ -理科大好き実験教室 2014-
川村康文(東京理科大学)

テーマ：高等科学教育・教育方法と評価①

日時：9月13日（土） 9：30～11：30 K会場（教育学部A棟324講義室）

座長：岡村秀樹（国際基督教大学）、田中 元（秀明大学）

- 1G1-K1 文系学生を対象とした自由研究の実施と科学的思考の理解度
岡村秀樹(国際基督教大学(ICU))
- 1G1-K2 「ごんぎつね」の続き話をマンガで作り、学習者間で共有することの有効性
平澤林太郎(小千谷市立小千谷小学校) 久保田善彦(宇都宮大学) 舟生日出男(創価大学)
鈴木栄幸(茨城大学) 加藤 浩(放送大学)
- 1G1-K3 実験分担率から分析した中学校理科実験における班の人数に関する研究
海老崎功(京都市立西京高等学校附属中学校/東京理科大学大学院科学教育研究科) 川村康文(東京理科大学)
- 1G1-K4 博士課程教育リーディングプログラムにおける異分野統合型学習で見られる大学院生の学びと課題
標葉靖子(大阪大学未来戦略機構第一部門) 平井 啓(大阪大学大型教育研究プログラム支援室)
藤田喜久雄(大阪大学大学院工学研究科)
- 1G1-K5 教育系学部の化学シラバスで占める大学以前の内容のウェイトー中高理科教員に望まれる化学リテラシーをもとめてー
田中 元(秀明大学) 小手川久美子(秀明大学) 鈴木哲也(東京未来大学)

テーマ：教材開発①

日時：9月13日（土） 9：30～11：30 L会場（教育学部A棟325講義室）

座長：網本貴一（広島大学大学院）、瀬戸崎典夫（長崎大学）

- 1G1-L1 二酸化炭素の定量を元に化学反応や材料を探究させる化学実験
網本貴一(広島大学大学院教育学研究科) 西口博光(広島大学大学院教育学研究科) 遠藤大介(広島大学大学院教育学研究科) 長谷清史(広島大学大学院教育学研究科)
- 1G1-L2 電気分解実験におけるイオンの存在の理解に関する研究
吉田英男(上越教育大学大学院) 桐生 徹(上越教育大学大学院)
- 1G1-L3 理科自由研究データベースと自由研究作品の単元・分野分類法の開発 (Ⅲ)
植竹紀子(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科) 堀田のぞみ(お茶の水女子大学サイエンス)

&エデュケーションセンター) 垣内康孝(お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター)
千葉和義(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科/お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター)

1G1-L4 環境教育における環境をとらえる方法としてのすごろくの有効性の考察

澁谷 久(北海道釧路町立昆布森中学校)

1G1-L5 タンジブル太陽系教材における提示形態に関する評価

瀬戸崎典夫(長崎大学) 森田裕介(早稲田大学)

【1日目午後】

テーマ：科学教育課程①

日時：9月13日(土) 12:30～14:30 G会場(教育学部A棟210講義室)

座長：内ノ倉真吾(鹿児島大学)、佐藤明子(お茶の水女子大学)

1G2-G1 アメリカの科学スタンダードにおけるモデリング能力ー“Next Generation Science Standards”の内容構成に着目してー

内ノ倉真吾(鹿児島大学)

1G2-G2 20世紀初頭のアメリカにおける高校生物の成立過程の研究

日高 翼(静岡大学大学院教育学研究科) 丹沢哲郎(静岡大学教育学部)

1G2-G3 米国中等前期科学教科書におけるデータ解釈 Integrated Scienceに着目して

宮本直樹(宮崎国際大学教育学部)

1G2-G4 アメリカの教材にみる小学校低学年の生物の世界

佐藤明子(お茶の水女子大学) 室伏きみ子(お茶の水女子大学)

テーマ：国際比較・国際貢献(国際支援)①

日時：9月13日(土) 12:30～14:30 J会場(教育学部A棟214講義室)

座長：猿田祐嗣(國學院大學)、松原憲治(国立教育政策研究所)

1G2-J1 TIMSS 調査データからみた学力格差の変化

猿田祐嗣(國學院大學)

1G2-J2 キプロス ESERA13 (ヨーロッパ科学教育学会隔年会議)の概要 フィンランド ESERA15 に向けて

岩間淳子(桐蔭横浜大学) 松原静郎(桐蔭横浜大学)

1G2-J3 日本における開発途上国の理科・科学教育に関する研究 研究対象・調査方法の分析から

高松森一郎(ぐんま国際アカデミー中等部)

1G2-J4 国際成人力調査でコンピュータ調査に参加しなかった者の背景要因

吉岡亮衛(国立教育政策研究所)

1G2-J5 TALIS2013の概要と結果ー日本の中学校教員の指導実践ー

松原憲治(国立教育政策研究所) 萩原康仁(国立教育政策研究所) 須原愛記(国立教育政策研究所)
山田亜紀子(国立教育政策研究所)

テーマ：教育実践・科学授業開発②

日時：9月13日(土) 12:30～14:30 K会場(教育学部A棟324講義室)

座長：三輪直也(関有知高等学校)、山本容子(筑波大学)

1G2-K1 2次方程式の解と係数の関係に関する授業の開発とその実践 創造的な活動に焦点を当てて
三輪直也(関有知高等学校)

1G2-K2 数学と理科を総合した授業の実際と授業分析

金児正史(鳴門教育大学教職大学院)

- 1G2-K3 **より簡便な実験材料（ウニ）の提供方法について**
清本正人(お茶の水女子大学) 濱中 玄(お茶の水女子大学) 廣瀬慎美子(お茶の水女子大学)
山口 守(お茶の水女子大学)
- 1G2-K4 **大学生の思考力・判断力を高める教材としての原発教育**
村上 祐(岩手大学(非)) 武井隆明(岩手大学教育学部) 吉村泰樹(岩手大学(非))
- 1G2-K5 **高校「生物基礎」の生態学分野における環境倫理意識の育成を目指した環境学習**
山本容子(筑波大学人間系)

テーマ：IT・メディア利用の科学教育システム①

日時：9月13日（土）14：45～16：45 G会場（教育学部A棟210講義室）

座長：久保田善彦（宇都宮大学）、杉野裕子（皇學館大学）

- 1G3-G1 **凸レンズが作る像の「規則性」の理解：AR教材を利用した実践から**
久保田善彦(宇都宮大学) 小松祐貴(上越市立春日中学校) 中野博幸(上越教育大学)
桐生 徹(上越教育大学)
- 1G3-G2 **CSCLを活用した協働学習における批判的思考力育成場面の検討**
佐藤和紀(東京都北区立豊川小学校) 久保田善彦(宇都宮大学) 舟生日出男(創価大学)
鈴木栄幸(茨城大学)
- 1G3-G3 **日本の学校におけるICT活用の過去と現状と将来**
坂谷内勝(国立教育政策研究所)
- 1G3-G4 **LOGOによる正方形・正三角形をもとにした「家」描画プログラミングの実際 「図形の傾き」
の概念に焦点を当てて**
杉野裕子(皇學館大学)

テーマ：科学教育人材養成①

日時：9月13日（土）14：45～16：45 J会場（教育学部A棟214講義室）

座長：小倉 康（埼玉大学）、森本弘一（奈良教育大学）

- 1G3-J1 **日本の中等教育段階の科学技術人材育成に向けたISEF（国際学生科学技術フェア）からの示唆**
小倉 康(埼玉大学) 永澤 明(埼玉大学)
- 1G3-J2 **科学の甲子園ジュニアと理数学習支援（1）**
河崎泰介(独立行政法人科学技術振興機構理数学習推進部) 田中勇作(独立行政法人科学技術振興機構理数学習推進部) 渡辺怜子(独立行政法人科学技術振興機構理数学習推進部) 三浦麻子(独立行政法人科学技術振興機構理数学習推進部) 小倉 康(埼玉大学教育学部)
- 1G3-J3 **科学の甲子園ジュニアと理数学習支援（2） 参加者へのアンケート調査結果から**
田中勇作(独立行政法人科学技術振興機構理数学習推進部) 渡辺怜子(独立行政法人科学技術振興機構理数学習推進部) 佐藤明子(元独立行政法人科学技術振興機構理数学習支援センター) 三浦麻子(独立行政法人科学技術振興機構理数学習推進部) 小倉 康(埼玉大学教育学部)
- 1G3-J4 **ASEAN連携による海外派遣での科学教育および教員養成の新たな試み**
野村 純(千葉大学) 山野芳昭(千葉大学) ヒワティグ・エイプリル・ダフネ・フロレスカ(千葉大学) 大
高竜午(千葉大学) 馬場智子(千葉大学) 山田響子(千葉大学) 飯塚正明(千葉大学) 板倉嘉哉(千葉大学)
大井恭子(千葉大学) 加藤徹也(千葉大学) 木下 龍(千葉大学) 下永田修二(千葉大学) 白川 健(千葉大
学) 杉田克生(千葉大学) 高木 啓(千葉大学) 林 英子(千葉大学) ベバリー・ホーン(千葉大学)

山下修一(千葉大学) 米田千恵(千葉大学)

1G3-J5

教員養成課程の大学生の学習方法

森本弘一(奈良教育大学) 石井俊行(奈良教育大学)

テーマ：教育実践・科学授業開発③

日時：9月13日(土) 14:45～16:45 K会場(教育学部A棟324講義室)

座長：山下修一(千葉大学)、中村好則(岩手大学)

1G3-K1

小学校4年「水のあたたまり方」の観察・実験結果をどのようにまとめるのか

山下修一(千葉大学教育学部) 秋保佳弘(鴨川市立長狭小学校) 長島弘樹(千葉大学教育学部附属小学校)
吉田朋枝(千葉大学教育学部)

1G3-K2

複数の理由付けを利用するアーギュメント構成能力の育成を目指した授業の評価 : 小学校第6学年「植物の養分」の事例

神山真一(神戸大学大学院人間発達環境学研究科/神戸大学附属小学校) 山本智一(宮崎大学教育文化学部)
山口悦司(神戸大学大学院人間発達環境学研究科) 坂本美紀(神戸大学大学院人間発達環境学研究科)
村津啓太(神戸大学大学院人間発達環境学研究科/日本学術振興会特別研究員) 稲垣成哲(神戸大学大学院人間発達環境学研究科)

1G3-K3

理科授業における予習の有効性に関する研究

高橋一哉(上越教育大学大学院) 桐生 徹(上越教育大学大学院)

1G3-K4

口頭のアーギュメンテーションにおける反論を促進する教授方略の改善と評価 反論の基準に関する理解に着目して

村津啓太(日本学術振興会特別研究員/神戸大学) 稲垣成哲(神戸大学) 山口悦司(神戸大学) 山本智一(宮崎大学) 坂本美紀(神戸大学) 神山真一(神戸大学/神戸大学附属小学校)

1G3-K5

算数指導におけるICT活用に関する学生の意識

中村好則(岩手大学)

テーマ：科学的学力・能力①

日時：9月13日(土) 14:45～16:45 L会場(教育学部A棟325講義室)

座長：丹沢哲郎(静岡大学)、中城 満(高知大学)

1G3-L1

特色ある附属学校を目指した理数才能教育の展開

丹沢哲郎(静岡大学教育学部)

1G3-L2

小学生における生態系の理解に関するラーニング・プログレッション 構成要素間の関係性に着目して

鈴木一正(神戸大学) 山口悦司(神戸大学)

1G3-L3

高校生のクリティカルシンキング態度と教科に対する学習態度との関係

宮本康司(東京家政大学) 池田まさみ(十文字学園女子大学)

1G3-L4

中学校教科書実験を場として生徒の思考力をどのように育てるか - 2学年「熱分解」「酸化・還元」における“小さな探究”の検討-

加茂川恵司(東邦大学(非)) 坂本有希(野田村教育委員会) 菊地洋一(岩手大学) 武井隆明(岩手大学)
村上 祐(岩手大学(非))

1G3-L5

文系学生と理系学生による科学的思考力の比較

中城 満(高知大学教育学部) 楠瀬弘哲(高知市立鴨田小学校) 国澤亜矢(南国市立岡豊小学校) 川崎 謙(高知工科大学)

【2日目午前】

テーマ：科学教育課程②

日時：9月14日（日）10：00～12：00 W会場（ソニックシティビル市民ホール第1集会室）

座長：磯部征尊（愛知教育大学）、小川正賢（東京理科大学）

- 2G1-W1 科学技術リテラシーを有する教員養成プログラムの構築
道法浩孝(高知大学) 蒲生啓司(高知大学)
- 2G1-W2 技術・工学の立場からのイギリス STEM 教育の現状と課題
磯部征尊(愛知教育大学) 山崎貞登(上越教育大学大学院)
- 2G1-W3 次期学習指導要領での高等学校必修基礎理科科目設置の検討
縣 秀彦(国立天文台) 松本直記(慶應高等学校)
- 2G1-W4 市民の思い描く近未来コミュニティの理想像とは？—科学教育に潜む規範の正当性を問い直す—
小川正賢(東京理科大学)
- 2G1-W5 見えない粒子の世界をみんなで演じて理解する方法の提案(2)
吉川直志(名古屋女子大学) 石川愛(名古屋女子大学) 加藤紗綾夏(名古屋女子大学) 竹村美香(名古屋女子大学) 大西菜々(名古屋女子大学) 河合桃子(名古屋女子大学)

テーマ：科学教育人材養成②

日時：9月14日（日）10：00～12：00 X会場（ソニックシティビル市民ホール第2集会室）

座長：土井 徹（広島大学附属東雲小学校）、金子健治（武庫川女子大学）

- 2G1-X1 理科における「教師主導の授業」についてのイメージ —教育実習生を対象に行った調査結果から—
土井 徹(広島大学附属東雲小学校) 林 武広(広島大学大学院教育学研究科)
- 2G1-X2 理科の伝道師としての専門性と実践力を支援する教員養成プログラムの推進(4) —拠点校構築に向けた取組を例に—
村松久和(信州大学学術研究院) 別府 桂(信州大学学術研究院) 榊原保志(信州大学学術研究院)
三崎 隆(信州大学学術研究院) 坂口雅彦(信州大学学術研究院) 天谷健一(信州大学学術研究院)
神原 浩(信州大学学術研究院) 伊藤冬樹(信州大学学術研究院) 竹下欣宏(信州大学学術研究院)
奥原竜司(長野県教育委員会)
- 2G1-X3 理系学生に着目した初年次科目受講者の自己評価に関する研究
黒田友貴(愛媛大学大学院教育学研究科)
- 2G1-X4 教員の専門性成長を促す要因に関する考察 「専門職の学習共同体」論から
吉田実久(コペンハーゲン大学) ソルバーク・ヤン(コペンハーゲン大学)
- 2G1-X5 小学校教員養成課程における理科実験の最適人数についての研究
金子健治(武庫川女子大学) 八杉友恵(赤穂市立有年小学校)

テーマ：教材開発②

日時：9月14日（日）10：00～12：00 Z会場（ソニックシティビル市民ホール第4集会室）

座長：松浦拓也（広島大学大学院）、松原静郎（桐蔭横浜大学）

- 2G1-Z1 浮力に関する大学生の認識について

松浦拓也(広島大学大学院教育学研究科)

2G1-Z2 **海洋教育の実践 小学校で簡便に授業実践できる「塩作り」教材**

垣内康孝(お茶の水女子大学) 清本正人(お茶の水女子大学) 千葉和義(お茶の水女子大学)

2G1-Z3 **手作り酸素センサを使った鉄粉カイロの酸化反応の実験**

高橋三男(東京工業高等専門学校) 菌部幸枝(お茶の水女子大学附属中学校) 後藤顕一(国立教育政策研究所) 野内頼一(国立教育政策研究所) 三木勝仁(北海道教育研究所附属理科教育センター) 飯田寛志(静岡県総合教育センター) 岩城圭一(富山県総合教育センター) 大平和之(新潟県立教育センター) 林 誠一(富山県立高岡南高等学校) 寺谷敏介(東京学芸大学名誉教授) 松原静郎(桐蔭横浜大学)

2G1-Z4 **定型を用いるモデル化学習**

寺谷敏介(東京学芸大学名誉教授) 北川輝洋(千葉県立千葉東高等学校) 久保博義(東京都立竹早高等学校) 宮内卓也(東京学芸大学附属世田谷中学校) 鮫島朋美(東京学芸大学附属国際中等教育学校) 後藤顕一(国立教育政策研究所) 松原静郎(桐蔭横浜大学)

2G1-Z5 **同定をテーマとしたモデル化学習教材**

松原静郎(桐蔭横浜大学) 北川輝洋(千葉県立千葉東高等学校) 久保博義(東京都立竹早高等学校) 宮内卓也(東京学芸大学附属世田谷中学校) 鮫島朋美(東京学芸大学附属国際中等教育学校) 後藤顕一(国立教育政策研究所) 寺谷敏介(東京学芸大学名誉教授)

【3日目午前】

テーマ：教育実践・科学授業開発④

日時：9月15日(月) 9:30～11:30 H会場(教育学部A棟212講義室)

座長：岸本忠之(富山大学)、高須佳奈(島根大学)

3G1-H1 **算数科における社会環境問題に関する地域教材の開発**

岸本忠之(富山大学人間発達学部)

3G1-H2 **授業研究からレッスンスターディへの翻訳から見える数学教師教育**

杉野本勇氣(福山平成大学)

3G1-H3 **科学教育におけるインクルーシブデザイン —2つの観点のバリアを意識した教材プログラムの開発—**

高須佳奈(島根大学)

3G1-H4 **データカードの活用による問題設定に焦点化した授業提案**

関 大介(愛知教育大学大学院)

3G1-H5 **小学校教員養成課程のコンピュータリテラシーの授業におけるFlashアニメーションの指導**

木幡直樹(高崎健康福祉大学) 片山 豪 (高崎健康福祉大学)

テーマ：科学教育連携システム①

日時：9月15日(月) 9:30～11:30 K会場(教育学部A棟324講義室)

座長：林 武広(広島大学大学院)、小川義和(国立科学博物館)

3G1-K1 **天体観望会でのインパクトと今後への要望 - 広島大学東広島天文台の観望会参加者への質問紙調査から -**

林 武広(広島大学大学院教育学研究科) 藤川義範(広島大学大学院教育学研究科) 植村 誠(広島大学宇宙科学センター) 川端弘治(広島大学宇宙科学センター) 吉田道利(広島大学宇宙科学センター)

3G1-K2 **中等教育と高等教育とを接続する授業づくりの取り組み**

若月 聡(東邦大学理学部/千葉市青葉看護専門学校/日本大学生産工学部/東京理科大学)

3G1-K3 **学校利用における博物館の「本来機能」と「副次的機能」**

戸田 孝(滋賀県立琵琶湖博物館)

3G1-K4 科学系博物館と学校との連携による科学的な思考習慣を育成する方略 ～科学リテラシー涵養活動とW型問題解決モデルの観点から～

小川義和(国立科学博物館) 五島政一(国立教育政策研究所)

テーマ：IT・メディア利用の科学教育システム②

日時：9月15日(月) 9:30～11:30 L会場(教育学部A棟325講義室)

座長：北澤 武(東京学芸大学)、余田義彦(同志社女子大学)

3G1-L1 教員養成段階の学生と現職教員のICT活用指導力に関する差異の分析—ICT活用指導力向上を目指したカリキュラムの検討—

北澤 武(東京学芸大学) 福本 徹(国立教育政策研究所) 森本康彦(東京学芸大学)

3G1-L2 データロガーを用いた研修が理科教員へ与える効果—探究的指導法に関する教員の気づきに着目して—

土佐幸子(新潟大学)

3G1-L3 イオンの動的モデルが生徒の粒子概念に与える効果

漆畑文哉(愛知教育大学大学院) 吉田 淳(愛知教育大学)

3G1-L4 動的幾何学ソフトウェアによる Taxicab 幾何学の学習環境の構築

大西俊弘(龍谷大学)

3G1-L5 協働学習支援システム「スタディノート9」における学校間協働学習支援機能 情報マッピング機能の追加

余田義彦(同志社女子大学) 東原義訓(信州大学) 毛利 靖(つくば市立春日小学校・中学校) 山野井一夫(筑波学院大学) 伊藤誠英(シャープビジネスソリューション(株))

【3日目午後】

テーマ：科学教育の現代的課題①

日時：9月15日(月) 12:30～14:30 H会場(教育学部A棟212講義室)

座長：松田稔樹(東京工業大学)、野村泰朗(埼玉大学)

3G2-H1 数学・理科の教員にSTEM教育的指導への取り組みを促す方策の検討

松田稔樹(東京工業大学)

3G2-H2 STEAMプログラムが科学的態度、自己効能感、科学学習動機に及ぶ教育的な効果

孔 泳泰(晋州教育大学)

3G2-H3 日本におけるSTS教育研究・実践の傾向と課題

内田 隆(埼玉県立飯能高等学校/東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 鶴岡義彦(千葉大学教育学部)

3G2-H4 STEM教育における生徒の探究活動にみる数学化の役割

上田祥平(筑波大学教育研究科) 平林真伊(筑波大学人間総合科学研究科) 清水美憲(筑波大学人間系)

3G2-H5 小学校におけるSTEM教育の考え方と導入可能性を検証する授業実践

野村泰朗(埼玉大学) 大高徹也(埼玉大学大学院)

テーマ：教育方法と評価②

日時：9月15日(月) 12:30～14:30 I会場(教育学部A棟213講義室)

座長：金子真隆(東邦大学)、山崎貞登(上越教育大学大学院)

3G2-I1 図の利用効果と数学的モデルの特性との関連について

金子真隆(東邦大学) 濱口直樹(長野高専) 碓氷 久(群馬高専)

- 3G2-I2 「理科大好き実験教室」を活用した実践的教員養成の評価
松本 悠(東京理科大学)
- 3G2-I3 能力開発型学習評価システムに関する研究
高橋 修(東京都江東区立砂町小学校)
- 3G2-I4 高等学校における理科課題研究の教育効果の調査
中村 琢(岐阜大学)
- 3G2-I5 生物育成に関する技術の学習評価規準の判別基準と評価事例
磯部征尊(愛知教育大学) 桑野浩彰(新潟市立光晴中学校) 山崎貞登(上越教育大学大学院)

テーマ：科学認識・科学教育論①

日時：9月15日(月) 12:30～14:30 K会場(教育学部A棟324講義室)

座長：加納寛子(山形大学)、上ヶ谷友佑(広島大学大学院、日本学術振興会特別研究員)

- 3G2-K1 情報リテラシー(情報機器の操作)に関するオントロジーの構築
加納寛子(山形大学)
- 3G2-K2 戦後地学教育の「転換点」はどこにあったか? —カリキュラム開発をめぐる1970年代の諸問題—
山田俊弘(千葉県立船橋高等学校/東京大学)
- 3G2-K3 図形の証明における前提に対する中学生の意識 —前提への着目に価値を置いていない生徒の記述に焦点を当てて—
小泉健輔(高崎健康福祉大学)
- 3G2-K4 教材作成：準正多面体の作成方法の提案
渡辺 信(公益財団法人日本数学検定協会/生涯学習数学研究所)
- 3G2-K5 数学的コンセプトの不確定性：ある児童の棒グラフのミスコンセプトの考察を通じて
上ヶ谷友佑(広島大学大学院院生、日本学術振興会特別研究員)

テーマ：科学教育の現代的課題②

日時：9月15日(月) 12:30～14:30 L会場(教育学部A棟325講義室)

座長：福井智紀(麻布大学)、奥本素子(総合研究大学院大学)

- 3G2-L1 市民参加型テクノロジー・アセスメントに関する学生の意識調査 —代表的手法に対する意見と理科授業導入への賛否を中心に—
福井智紀(麻布大学)
- 3G2-L2 大学生が今考える理科離れについての一考察
小林秀明(神奈川大学)
- 3G2-L3 科学への低関与層も含めた幅広い人々の科学技術への関与 —科学技術イノベーション政策へのパブリックエンゲージメント—
加納圭(滋賀大学/京都大学/JST・RISTEX) 工藤充(京都大学) 菅万希子(帝塚山大学) 前波晴彦(鳥取大学) 水町衣里(京都大学) 吉澤剛(大阪大学)
- 3G2-L4 初等中等教育における現代的科学リテラシーの育成を目指した放射線教育カリキュラムの開発 —先行研究と科学館での実践—
戸田雅彦(茨城大学教育学研究科) 大辻永(茨城大学教育学部)
- 3G2-L5 科学的概念の共有化のためのアート作品の効果の分析
奥本素子(総合研究大学院大学) 岩瀬峰代(総合研究大学院大学)

インタラクティブセッション

【1日目午後】

日時：9月13日（土）12：30～14：30 A会場（総合研究棟1階ホール）

- | | |
|---------|--|
| 1B2-A1 | <p>理科大好き実験教室におけるフライングバンデ
倉田亮輔(東京理科大学) 川村康文(東京理科大学)</p> |
| 1B2-A2 | <p>理科大好き実験教室と東北復興支援
小山将平(東京理科大学) 川村康文(東京理科大学)</p> |
| 1B2-A3 | <p>理科大好き実験教室における表計算ソフトを用いた斜方投射シミュレーション
藤本博之(東京理科大学) 川村康文(東京理科大学) 倉田亮輔(東京理科大学大学院科学教育研究科)</p> |
| 1B2-A4 | <p>理科大好き実験教室におけるゼラチンレンズ実験
水谷紫苑(東京理科大学) 川村康文(東京理科大学) 井筒 理(東京理科大学大学院科学教育研究科)</p> |
| 1B2-A5 | <p>理科大好き実験教室における静電気での空気清浄機
大須隆寿(東京理科大学) 川村康文(東京理科大学)</p> |
| 1B2-A6 | <p>理科大好き実験教室における手回し発電機
入野寿洋(東京理科大学) 井筒 理(東京理科大学大学院科学教育研究科) 川村康文(東京理科大学)</p> |
| 1B2-A7 | <p>学校教育現場での実践も可能な実用機としての卓上型サボニウス型風車風力発電機
“IDUTSU-MODEL”の開発
井筒 理(東京理科大学大学院科学教育研科) 川村康文(東京理科大学)</p> |
| 1B2-A8 | <p>STEM-Robotics 教育の提案とインド公立学校における試行
野村泰朗(埼玉大学教育学部) 佐藤雅一(株式会社ラーニングシステム) 菊地廉也(株式会社ラーニングシステム) David Prakash(LSCL)</p> |
| 1B2-A9 | <p>来園者の科学的観察を支援する紙芝居とワークショップの開発・改善
奥山英登(旭川市旭山動物園) 田嶋純子(旭川市旭山動物園) 田中千春(旭川市旭山動物園) 坂東 元(旭川市旭山動物園) 山橋知香(神戸大学) 山口悦司(神戸大学) 稲垣成哲(神戸大学)</p> |
| 1B2-A10 | <p>動物園来園者の科学的観察を支援する紙芝居の改善 来園者の主観的評価
山橋知香(神戸大学) 山口悦司(神戸大学) 稲垣成哲(神戸大学) 奥山英登(旭川市旭山動物園) 田嶋純子(旭川市旭山動物園) 田中千春(旭川市旭山動物園) 坂東 元(旭川市旭山動物園)</p> |
| 1B2-A11 | <p>博士課程におけるキャリア支援 フランスのエクス・マルセイユ経済学研究科を事例にして
大黒仁裕(神戸大学) 楠 房子(多摩美術大学) 寺野隆雄(東京工業大学) 山口悦司(神戸大学) 稲垣成哲(神戸大学)</p> |
| 1B2-A12 | <p>日本における宇宙教育の現状と課題 I ー中学校教員へのアンケート調査よりー
井上晴香(神戸大学) 伊藤真之(神戸大学)</p> |
| 1B2-A13 | <p>「理科離れ」を改善する小中連携理科教育 中核的理科教員(CST)として活動報告
井形哲志(上尾市立大石中学校)</p> |
| 1B2-A14 | <p>持続可能な開発のための予測する数学的活動 微小粒子「PM2.5」を気象衛星から予測する環境汚染
槇 誠司(東北大学大学院情報科学研究科)</p> |
| 1B2-A15 | <p>地域の環境素材を取り入れたデジタル環境紙芝居の開発と普及
鈴木哲也(東京未来大学)</p> |
| 1B2-A16 | <p>数学教育における学年初めのガイダンス授業に関する実践的研究</p> |

澁谷 久(北海道釧路町立昆布森中学校)

- 1B2-A17 **校務の情報化にタブレットPCをどのように活用するか ～タブレットPCの特性を活かした活用～**
山崎宣次(中部学院大学) 横山隆光(岐阜県揖斐川町立揖斐小学校) 加藤直樹(岐阜大学) 興戸律子(岐阜大学)
- 1B2-A18 **高等学校での化学領域における実験スキルの分析と定量の重要性を示した実験教材の作成**
生尾 光(東京学芸大学) 中谷公祐(東京学芸大学) 小川治雄(東京学芸大学)
- 1B2-A19 **量概念育成教材の開発 天体教材の基礎として**
間々田和彦(筑波大学附属視覚特別支援学校/王立ブノンペン大学)
- 1B2-A20 **セントラルドグマ説明用立体DNA模型の開発**
早川雅晴(植草学園大学)
- 1B2-A21 **理科大好き実験教室における衝突球実験器**
長内創理(東京理科大学) 川村康文(東京理科大学) 松本 悠(東京理科大学) 倉田亮輔(東京理科大学)
- 1B2-A22 **理科大好き実験教室2014における分子構造模型**
久米 望(東京理科大学) 川村康文(東京理科大学) 井筒 理(東京理科大学大学院科学教育研究科) 倉田亮輔(東京理科大学大学院科学教育研究科)
- 1B2-A23 **理科大好き実験におけるソーラークッカー**
松原涼太郎(東京理科大学) 倉田亮輔(東京理科大学) 岡茱由理(東京理科大学) 川村康文(東京理科大学)
- 1B2-A24 **理科大好き実験教室におけるブラックライト暗箱**
山崎裕基(東京理科大学) 川村康文(東京理科大学) 井筒 理(東京理科大学大学院科学教育研究科) 倉田亮輔(東京理科大学大学院科学教育研究科) 岡茱由理(東京理科大学大学院科学教育研究科)
- 1B2-A25 **教具レゴを用いた実験・観察型アプローチによる数学授業設計—教育版レゴ®マインドストーム®EV3によるデータロギング—**
塚原康介(埼玉大学大学院教育学研究科) 松崎昭雄(埼玉大学教育学部)
- 1B2-A26 **小学校第6学年「電気の利用」単元の発熱教材の条件に関する研究—短時間で大きな温度差が出るよりわかりやすい実験条件とは—**
寺本貴啓(國學院大學) 森ゆりか(世田谷区立赤堤小学校)
- 1B2-A27 **卓上型サボニウス型風車風力発電機(IDUTU-MODEL)の実践報告**
杉森遥介(東京理科大学大学院科学教育研究科) 川村康文(東京理科大学) 井筒 理(東京理科大学大学院科学教育研究科)
- 1B2-A28 **理科大好き実験教室2014における新規の電気伝導性ガラスによる色素増感太陽電池搭載型模型自動車**
岡茱由理(東京理科大学大学院科学教育研究科) 川村康文(東京理科大学)
- 1B2-A29 **「人体」の理解を支援するすごろくゲームの開発**
薄井健太(宇都宮大学大学院教育学研究科) 出口明子(宇都宮大学教育学部)

年会実行委員会企画

テーマ： 小中学校教員研修会 全国のコア・サイエンス・ティーチャー（CST）から学ぼう
日時： 9月15日（月） 9：20～15：00
会場： C会場（総合研究棟11番講義室）、D会場（総合研究棟12番講義室）
共催： 埼玉大学 Saitama CST事業、独立行政法人 科学技術振興機構(JST)

趣旨： （独）科学技術振興機構（JST）が平成21年度に指定した6地域（鹿児島県、長崎県、福井県、滋賀県、神奈川県、東京都）から6人のCST（コア・サイエンス・ティーチャー）と、埼玉県の4人のCSTに講師をお願いし、日頃CSTとしての活動の内容や開発した教材、指導法などを紹介していただきます。小中学校で理科を教える上で実用性の高い知識や技能に関するワークショップであり、県内外から多くの小中学校教員に参加いただけるよう、埼玉大学 Saitama CST事業、独立行政法人科学技術振興機構(JST)との共催で企画しました。参加費は無料でどなたでも参加できます。

CSTとは： （独）科学技術振興機構（JST）による公募事業で、大学と教育委員会が共同で取り組む応募企画が採択された全国16の地域で、理科教育で中核的な役割を担う教員として活躍していただくため、一定の教育・研修を積んだ現職教員と学生がこれまで約1000名認定されている。JSTからの支援期間終了後も各地域で事業の継続に独自に取り組むことが期待されている。埼玉大学は、さいたま市教育委員会、埼玉県教育委員会と共同で平成24年度に Saitama CST事業を立ち上げ、CST養成と活用の事業に取り組んでいる。（<http://www.cst.saitama-u.ac.jp>）

日 程

8:30～ 受付（A会場（総合研究棟1階ホール））
9:20～9:50 開会式（C会場（総合研究棟11番講義室））
10:00～13:45 CSTワークショップ“CSTとして伝えたい実践”（C会場、D会場（総合研究棟11番講義室））
14:00～15:00 シンポジウム“理科を教える先生方をいかにサポートするか”（C会場（総合研究棟11番講義室））

小学校分科会 C会場（総合研究棟11番講義室）

10:00-10:30 小学校理科の授業のための提案～興味・関心を高め、持続させるためには
垣内浩（福井県越前市立武生東小学校）
10:30-11:00 不十分な科学概念の再構成を促す教授学習モデルの開発
柿沼宏充（埼玉県羽生市立須影小学校）
11:00-11:30 遊び心のある教材の活用～5年生「もののとけ方」におけるカラー水溶液を使った学習を中心に～
桑岡佳朗（長崎県長崎市立飽浦小学校）
11:30-12:45 昼食
教材展示（A会場 総合研究棟1階ホール）
12:45-13:15 「理科が楽しい」「理科が好き」という仲間が増えるためにCSTとしてできること～研究会や外部機関との連携を意識して～
高橋健一郎（神奈川県川崎市立西有馬小学校）
13:15-13:45 小学校理科授業におけるゲーミフィケーションの導入
向山典宏（東京都瑞穂町立瑞穂第四小学校）

- 10:00-10:30 小中 9 年間を見通した理科の指導について
朝尾保彦（鹿児島県鹿児島市立西陵中学校）
- 10:30-11:00 ニボシの解剖をしよう
井形哲志（埼玉県上尾市立大石中学校）
- 11:00-11:30 地域研修会の実践報告とその中の教材の紹介
谷津勇太（埼玉県八潮市立八潮中学校）
- 11:30-12:45 昼食
教材展示（A 会場 総合研究棟 1 階ホール）
- 12:45-13:15 教材研究の楽しさを伝える CST 活動
間所忠昌（滋賀県立琵琶湖博物館主任主事）
- 13:15-13:45 火成岩の色の違いを、カラーサンドを使って体験的に学習する教材
山下雅之（埼玉県深谷市立上柴中学校）

日本科学教育学会年会企画委員会

- 委員長 谷塚光典（信州大学）
副委員長 佐伯昭彦（鳴門教育大学）
松浦拓也（広島大学）
- 幹事 瀬戸崎典夫（長崎大学）
- 委員 阿部好貴（新潟大学）、加藤久恵（兵庫教育大学）、加納 圭（滋賀大学）、
鈴木哲也（東京未来大学）、大黒孝文（同志社女子大学）、東原貴志（上越教育大学）、
増田有紀（東京成徳大学）、松寄昭雄（埼玉大学）、松元新一郎（静岡大学）、
御園真史（島根大学）、向 平和（愛媛大学）、谷田親彦（広島大学）、
山本智一（宮崎大学）、渡辺雄貴（首都大学東京）
- 担当理事 高藤清美（筑波学院大学）
日野圭子（宇都宮大学）

日本科学教育学会第 38 回年会実行委員会

- 実行委員長 清水 誠（埼玉大学）
- 実行委員 浅田茂裕、小倉 康、二宮裕之、松寄昭雄（埼玉大学）
- [連絡先] 日本科学教育学会第 38 回年会実行委員会
〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255
埼玉大学教育学部 小倉 康

若手の会

9/12（金）の夜に、語り合しましょう

年会恒例となってきましたが、今年も「若手の会」を実施します。
趣旨は若手同士のネットワークづくりで、お互いの興味・関心や今後の展望、研究生活での苦労話などざっくばらんに語りながら、ついでにご当地の美味しいものも食べて楽しく飲もうという企画です。恒例化してきましたが、参加者は毎回様々ですので、今回が初めてという方でもどうぞ気楽にご参加ください。

今年は、9/12（金）です。全国の科学教育関係者が集まる年に1度の機会を利用して、情報交換して楽しみましょう。年齢制限はございません。「若手」とは、あくまでも「自称の若手」です。

「自分はまだまだ元気だ」「自分はバリバリ活躍するぞ」という方々が、この会合の対象者です。学会の非会員の方も参加できます。年会に参加予定の方、どうぞご参加ください。若手の会に参加したら、翌日からの年会がさらにエンジョイできるはずです。多数のみなさまの参加をお待ちしています。

■ 月日

2014年9月12日（金）

■ 時間

18時30分開始～20時終了予定

■ 場所

手打ちそば、和食、地酒のお店「吉草（きっそう）大宮本店」
さいたま市大宮区宮町3-1-7 HSビル1F（大宮駅 東口 徒歩6分）
Tel 048-644-5800 <http://www.hotpepper.jp/strJ000017855/party/>

■ 会費（予定）

5,000円

■ 参加資格

制限はございません。

自称「若手」であれば、どなたでも参加できます。また、学会の非会員の方も参加できます。

■ 参加申込

事前申込制です。

なお、下記の点にご注意ください。

- (1) 会場手配などの都合上、下記の申込期間以外の受付は、原則としていたしません。
- (2) 申込後のキャンセルは、8月29日（金）までとします。
- (3) 8月29日以降のキャンセルや当日欠席の場合、会費を請求させて頂く場合があります。

■ 申込期間

（参加申し込みを2014年8月16日（土）で締め切りました）

■ 第38回年会「若手の会」企画担当委員

加藤久恵（兵庫教育大学）[katohi \[at mark\] hyogo-u.ac.jp](mailto:katohi[at mark]hyogo-u.ac.jp)

増田有紀（東京成徳大学）[y-masuda \[at mark\] tsu.ac.jp](mailto:y-masuda[at mark]tsu.ac.jp)

向 平和（愛媛大学）[muko \[at mark\] ed.ehime-u.ac.jp](mailto:muko[at mark]ed.ehime-u.ac.jp)

国際ランチョン・ミーティング –国際学会参加のススメ–

年会 2 日目 9 月 14 日（日）の昼食時間に国際ランチョン・ミーティングを開催致します。

今年 2014 年に韓国で開催された東アジア科学教育学会主催のウィンタースクールに参加した大学院生が中心となって、国際交流の意義やコツを語り合いながら、学会参加者同士が交流出来る場を提供したいと思い、企画しました。

国際（International）交流（Interaction）の第一歩（Initiative）をテーマにして、学会参加が更に有意義なものとなるようなきっかけ作り、ネットワーク作りの場になればと思います。学会員の方、そうでない方、学生会員、外国人会員、学会参加者同士の交流を深めたい方など、様々な学会参加者の方々を対象にします。懇親会の前に、気軽に交流してみませんか。

また、ウィンタースクールの参加報告、英語でのプレゼンテーションなどの情報提供と共に、今まで国際学会や国際交流行事に参加してきた先輩方にご協力頂き、アドバイスや経験談を共有していきます。普段会うことが出来ない方々から、国際交流のコツを聞けるまたとない機会です。

国際交流委員会より軽食と飲み物を用意して頂きます。是非お気軽にご参加下さい！

なお、詳細は、下記の JSSE 年会 Web サイトをご覧ください。英語版での説明、ポスターもごさいます。

- ・ 詳細

<http://www.jsse.jp/jsseam/modules/note7/index.php?id=27>

- ・ ポスター

<http://www.jsse.jp/jsseam/modules/wfdownloads/singlefile.php?cid=3&lid=11>

日時：年会 2 日目 9 月 14 日（日） 12:00～13:00

場所：大宮ソニックシティ 4 階 市民ホール

参加費：無料(軽食と飲み物が提供されます)

参加資格：どなたでもご参加頂けます。

参加申込：当日会場に直接お越し下さい。

企画運営：東アジア科学教育学会サマー・ウィンタースクール OBOG

協力：国際交流委員会、広報委員会、年会企画委員会

お問い合わせ：企画担当・吉田実久（コペンハーゲン大学）[miku.yoshida \[at mark\] ind.ku.dk](mailto:miku.yoshida[at mark] ind.ku.dk)

日本科学教育学会 学会通信 編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

担当理事：久保田善彦（宇都宮大）	谷塚光典（信州大）
委員：縣 秀彦（国立天文台）	銀島 文（国立教育政策研究所）
稲垣成哲（神戸大）	東原貴志（上越教育大）
今村哲史（山形大）	山口武志（鹿児島大）
幹事：内ノ倉真吾（鹿児島大）	小松孝太郎（信州大）

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□事務局 中西印刷(株) 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会